



コロナの時代の僕ら

著者名	パオロ・ジョルダー	発行年	2020年
出版社名	早川書房	ページ数	128ページ
値段	1,430円	ISBN	978-4152099457
コメント	毎日毎日、伸び行く不吉なグラフをただ茫然と眺めていましたよね。 遠いイタリアでも同じように茫然と立ちすくんで、でもそこから深い思索をつむいで、全世界に発信した若き物理学者さんがいます。読みやすい短いエッセイ群から、未来への熱い思いを汲み取ってください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

ウインディ ☆☆☆	この書籍ではコロナウイルスの影響により、ロックダウンを余儀なくされたイタリア人の数学者である筆者が、2020年3月現在の自分の身の回りの状況とそれに対する感情について綴られている。筆者は数理モデル(SIRモデル)を用いて、感染状況を分析し感情に流されることなく、自発的に家にとどまることを決めていた。我が国日本では、第二波が落ち着いたところで、GOTOキャンペーンを施行することで地方産業の受けた経済的なダメージを修復させようとしていた。しかし、皮肉にもGOTOキャンペーンの影響により、感染者の数は急増し重症者の数は先日過去最多となった。重症者病床が埋まり始め、医療崩壊が心配される現在である。amazonのレビューには「今読みたい本」という見出しがつけられているが、私はたいして興味深さは感じられなかった。というのも、我々は得体のしれないウイルスが蔓延する世界の中にいるわけである。筆者の書くことは既知の知識により裏打ちされた事実に基づく推論に過ぎないものであるから、革新をもたらすものは得られなかった。しかし、感染状況を分析する数理的なモデルについて興味を持つことができた。		
	全部	126P (150分)	14-21 2020/11/30 23:30:12

chris ☆☆☆☆	まず、コロナの時代の僕らを読んだ感想は、とにかく頭の中に入ってきやすい文章であったということだ。この本の構成が複数の短いエッセイのようなものからなるのもあるが、それに加え具体例が多く、身近な話題を例として表現してくれるため読みやすかったのだと思う。特に面白いと思ったのは、感染症の流行をビリヤードの玉として例えたところだと思った。このシンプルな例えが故に複雑に見えていた感染症の流行も理解しやすかった。また、筆者が理系であるためか他の本よりも淡々と語られている気がして、それが自分は気持ちよく読み進められた。そして、今回の何より心動かされたのは著者後書きであった。あとがきの中の一文一文がとても重く、そして心に刺さった。僕は忘れたくないで始まる複数の文章はシンプルでいながら、悲痛な叫びというものをかんじさせた。この本を読んだおかげで、自分のコロナに対する甘さを痛感させられたし、これから先における自分の考え方を考えるきっかけにも確実になったと思う。もしこの本が出版されてすぐに全世界の全員が読んだならば、コロナはもっと穏やかになっていたのではないかなと思うくらいに影響力のある本だと思う。この本に出会えてよかったと心から思える1冊であった。		
	1-126	126P (80分)	110-113 2020/11/20



FACTFULNESS

著者名	ハンス・ロスリングほか	発行年	2019年
出版社名	日経BP社	ページ数	400ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4822289607
コメント	統計学×医学。 世界情勢と斬り結びながら、真摯に生き抜いた医師が遺したパワフルで前向きなメッセージが、人間はどういう思い込みをしやすいか「10の本能」という分かりやすい仕立てで届きました。これは見逃せない。授業でも「宿題」として、がっつり取り上げる予定です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

わくわく ☆☆☆☆	過剰気味に報道するメディアの情報にも落ち着いて、思い込まずに判断することを訴えた本。始まりから「お前たちの脳はサル以下である」と読者に突きつけるこの本において、文章の、自分は分かっているという立場を取り続け、読者を見下したような書き方（翻訳のせいでもあるかもしれない）に若干腹立たしさを感じるも、立ち読みポイントにした「おわりに」の部分では、著者ががんに侵されながらもこれをどれだけ読者に伝えたかったかがひしひしと感じられた。また、実際にこの本を読んだ後のニュースに対する見方が変わったのを感じた。メディアは今後更にやり方を変えてより市民を刺激するニュースを流そうとするだろうとする時代に対して一石を投じた、影響力のある作品。			
	全て	400P (400分)	326-328	2020/11/30 23:58:35

tatsukichi ☆☆☆☆	あなたは世界の貧困、人口、教育、保健、ジェンダー、環境などの要因についてどれだけ知っている自信がありますか。この本の始めに、これらの世界を取り巻く状況の変化に対する13の質問が投げかけられています。おそらくこの本の読者は、その13の質問の正答率に愕然とするでしょう。なんせ3択問題13問を適当に答えたって確率的に4問は正解するというのに、考えたうえで答えた結果が適当に答えたときよりも悪かったりするのですから。なぜそのような結果になってしまうのか、それは世界中の人々が共通して世界に対する誤った思い込み、認識を持っているからなのです。この本は10個の誤った思い込みについて紹介し、それらを知ることによって世界の見方を正してくれます。特に気になったものの一つに我々のネガティブ本能というものがあります。これは、悪いニュースが目につきやすいことなどの理由でこの世界が悪い方向に向かい続けている、あるいはそれほど貧困は改善していないなどととらえてしまう傾向のことを指しています。しかしながら、世界はあなたが思っているよりも悪くはないのかもしれない。まず、本の冒頭にある13問の問いを解いてみて、自分がどれほど世界について知っているのか、知らないのかを認識するだけでもこの本を手取る価値があると思います。			

	全部	400P (360分)	62-77	2020/11/30 23:30:20
frog ☆☆☆☆☆	まず、はじめに13問の世界の事実に関するクイズから始まります。ここで私は1つしか正解できず、自分の世界に対する認識が大きく間違っていたこと、そして知識不足を痛感しました。このように人間が10個の本能によって世界を誤って捉えてしまうことから、メディアやこれまで受けてきた教育、経験などから得ている情報に大きく惑わされて、勝手に世界がどんどん悪くなっているという間違った世界の見方を正し、人間の本能による10の思い込みを乗り越え事実に基づく世界の正しい見方を教えてくれるものとなっています。具体的な内容で資料もわかりやすく整理されているため、本の分厚さの割には読みやすい内容となっていると思います。 個人的には、はじめのクイズでほとんど正答できなかったことがショックでしたが、この本を読んでそのショックが好奇心に変わり、物事に対する考え方が少し変化したように感じます。また、自分の持っている世界の現状に対する認識を改める良い機会となりました。それなりの知識を持つ大学生にこそ読んで欲しい一冊です。			
	全部	397P (300分)	9~13	2020/11/30 23:16:44
bonc ☆☆☆☆☆	本書は人間が世界を間違ったように捉えてしまうという傾向を明らかにし、それによっておこる弊害や、現実と認識のギャップを説明するものである。著者のハンス・ロスリングは、人間が世界に対する誤解を抱いてしまう要因として様々な「本能」を提唱している。例えば、「世界は分断されている」と思い込んでしまう「分断本能」や、自分に不幸なことがあったときに誰かを責めようとしてしまう「犯人捜し本能」などについての説明がある。世界を正しく認識できなくしてしまう心理的な作用を理解することにより、その「本能」を超えて世界に対する誤解を解消することが本書の目的であると考えることができる。その際に役に立つのが統計的なデータであり、さらに端的に言うところ「数字」である。本書の特徴として、現実起こっていることの説明として、様々な統計データとグラフが用いられている。理系の皆さんならよく分かると思うが客観的なデータに基づく主張は理解しやすく何より説得力がある。私も本書を読むまでは自分は賢いと思っていたが、世界への認識は間違いだらけであるということ、データによって納得させられた。どのような人も現実を誤って認識してしまう「本能」を持ち合わせているので誰にとっても読む価値のある一冊であると思った。			
	全部	340P (400分)	9ページからのクイズ	2020/11/30 19:56:51
Shangus ☆☆☆☆☆	本書は、医者であるハンス・ロスリングが、人々の認識を変えようとして執筆した本である。 本の内容は13個の間から始まった。その中で2個しか正しい解答を出していなかった私は、私の世界に関する認識が物凄く間違えていることが分かった。注目すべきことは、私だけではなく、世の中の様々な人達が似たような誤りを起こしていることだった。一般的な人だけでなく、いわゆる世界のエリート達も同じだったのであった。 著者は私たちが、偏見、繰り返されるニュースではなく、統計資料等の客観的な根拠に基づいて判断することを望んでいる。本書で登場する人間の10個の本能を紹介しながら、我々はどうのような誤りを起こし安いかを具体的に捉えていて、データを通じて状況を把握することの重要性を感じた。 私は本書と接するまで、ある程度は世の中を客観的に見ている人であると思っていたが、上記した10個の誤りの中でほぼ全部を起こしていた。本書は、自分が正しくないかもしれないということ論理的に証明してくれた本であり、私個人的にも考え方が少しは変わったと考えられる。			
	全部	342P (431分)	28P-39P	2020/11/30 17:04:34
ラゴス ☆☆☆	人々の思い込みをデータを元に正していく、データという真実から世界を見る「ファクトフルネス」の見方を説く話題の新書。私たちはテロリズムやナショナリズム、貧富の格差や地球温暖化など、社会の悪い部分ばかりが目が行き、世界はどんどん悪くなっていると思い込んでしまっている。そんな思い込みを世界各国のデータとわかりやすい図表で次々に正していく一冊。			

	マスメディアは上手くいっていることや良くなっていること、特に予定通りや少しずつということは報道しない。それは劇的な物事しか注目されないからであり、必然的に大きな事件ばかりがニュースになってしまう。先進国の人々はこうした報道の在り方によって、実情を目にする機会のないような遠い発展途上国の状況について誤った認識を形成してしまっている。アフリカ・アジア・南米の途上国に対して、漠然と貧しい国というイメージを持っているかもしれないが、それらの国々にもグラデーションが存在し、イメージ通りの貧困というのはごく一部の極貧国だけで、多くの国では人々のイメージよりもはるかに良い生活ができています。そうした世界の実情を正しく認識することが、まず第一に必要であると本書は教えてくれる。			
	全て	343P (200分)	183ページ〜	2020/11/30 07:43:49

ノゴロー ☆☆☆	ちょっと前にこの本はとても話題になっていたので存在は知ってましたが読んだことはありませんでした。というも、ただおもしろいデータを紹介するだけの本だと思っていたからです。ところが実際に読んでみると、おもしろいデータを紹介するのはあくまで読者の興味を引いて説得力を持たせるための手段であって、この本のメインピックはデータに基づいて世界を見るために弊害となっている人間的特性を取り上げて、それに対する解決策を提示してデータを正しく見るための力をつける方法論でした。このメインピックの話は非常に説得がありとても読んでいてためになる内容でした。内容が行動経済学の非合理性の話や、統計学や、認知心理学の話にとっても近く、経営工学系の人たちには非常になじみ深い話でした。その分、そんなこともう知ってるよっていう内容も結構ありました。そして、この本ではデータを正しく見るための心もちみたいな話しかないので、今後世界を正しく見ていくには自分から世界に関するデータを探して積極的にデータを見ていく必要があると感じました。			
	全て	397P (300分)	1-13ページ	2020/11/29 18:34:02

児島競艇 ☆☆☆☆	本書は自分が世界の現状に対する認識がどれだけ間違っているかを教えてくれた。イントロダクションに世界の現状に関する13個の3択クイズがあるのだが、自分は半分も正解できなかった。本書はなぜこれらの質問の正答率が低いのか、なぜ世界の現状を勘違いしているのかを、10個の思い込みのせいだとし、各章で思い込みの原因、対策について筆者が実際に体験したエピソードを織り込んで丁寧に解説してくれる。 本書を読むことによって、自分が間違った思い込みをしていることに気づきデータをもとにした正しい思考法が得られる。統計学の専門用語は出てこなく、具体的な話が多いので誰でも容易に読むことができる。(同じ表現が繰り返してできて回りくどいと感じる人もいかもしれないが。)分厚く読むのに抵抗を感じるかもしれないが、イントロダクションに関する13個の質問は是非回答してみたい。 きっと自分の正答率、また有識者の正答率に驚き、なぜ間違えてしまうのかを知りたくなり読破してしまうだろう。			
	全部	397P (360分)	309-325,6-25	2020/11/15 16:30:52

mauro ☆☆☆☆	本書を読んで、僕は自分がいかに世界を誤認していたのかということに気づかされた。本書の冒頭には、世界をどの程度把握できているかを問う基本的なクイズがあるのだが、僕は半分も正解できなかった。高校で倫理政経を学んでいて、そこそこ自信があっただけに、この結果はショックだった。しかし、本書を読むことによって、なぜ自分が誤った思い込みをしていたのか、偏見を持っていたのかということに気づくことができた。本書では、人間が誰しも持っている10の思い込みについて述べているのだが、ここで、僕が「これだけは知っておきたい」と考える思い込みについて紹介したい。それは、「ネガティブ本能」だ。これは文字通り、物事をネガティブに見てしまうという本能で、僕が陥ってしまいがちなものだ。自分のまわりの環境は、確実によくなっているはずなのに、ニュースの偏向報道の影響もあるかもしれないが、人間はネガティブなものをより強く受け取ってしまうのだ。ほかにもいろいろな本能が紹介されているので、ぜひ読んでほしいと思う。			
	1-360ページ	360P (300分)	28-76ページ	2020/11/13 14:49:19

みちみち
 ☆☆☆	この本は、世界はよくなっているという大きなテーマの下で客観的に世界を見つめる方法を私たちに教示してくれます。私たちは情報であふれた現代にしながら世界のことを実は正しく理解していない、そのような情報を得ることができていないことに気が付かれます。本書に出てくるデータは一貫して国連や政府が出した信頼性の高いデータであるため、私たちがいかに偏った世界の見方をしているのか、またそれを矯正し正しく世界を理解するにはどうすればいいのか示してくれます。 人間には様々な本能があり、それによって世界を正しく見るができなくなってしまう。また数字は客観的な指標に見えて実はそうではないことも多くあります。データは誰かによって故意に作られた偏ったものである可能性があります。多くの情報を得られる現代だからこそ正しい情報もそうでない情報も私たちの中に入ってきます。この本を読んで、そうした情報から正しいものだけを選んで取り入れるフィルターを作ってみてはいかがでしょうか。			
	1-397	397P (300分)	6-025	2020/11/03 13:54:11

まーピー ☆☆☆☆	本書は、世間が正しく世界を見ることができるよう、TIME誌が毎年発表している『The 100 Most Influential People』に選ばれたこともあり、医師でもあるハンス・ロスリングと、その息子のオーラ・ロスリング、そしてオーラの妻のアンナ・ロスリング・ロンランドが、「FACTFULNESS」という概念・習慣を読者に伝えるものである。人々がデータを誤って読み解く原因を「10の本能」と称し、それぞれの具体例を挙げつつ、正しくデータを読み取るためにどのように抑えるべきかについて述べられていく。また、著者の一人のハンス・ロスリングが医師として目の当たりにした世界の実情のみならず、ハンス自身も正しくデータを読み取ることができずに失敗した経験についても述べられている。また、最後には実践するためにどうすべきかについてまとめられている。 本書を通じて、著者らが訴えていることは、「謙虚さと好奇心を持つこと」である。本書の中で「本能」と呼ばれる、人々が誤って事実を見てしまう原因、を抑えて事実を正しく見ることがどれほど難しいことであるかに気づくことが「謙虚さ」。自分の考えに合わないような新しい情報でも積極的に探し、興味を持って受け入れることが「好奇心」。この2つを持つことが最も大事なのだという。世界が変わっていているために知識をアップデートするためにもこの2つが必要だともいう。こうして、データを正しく見ることができない理由だけでなく、我々が実践するためにはどのようにすればよいのかを伝えているのである。 また、読者が世界を知ることができていないことを実感するために、始めに13の質問が用意されている。そして、各質問の正解率は無作為に選択した場合よりも低いのである。専門家やノーベル賞を受賞するような方々でもだ。そのことを我々がチンパンジーに負けていると表現している。我々がただ世界を知らないのではなく、誤って事実を解釈しているということがよくわかる。 本書が名著と評され、多くの人の心を動かすのは、著者が失敗を経て「FACTFULNESS」という概念を実際に体得していることだけではないだろう。 「FACTFULNESS」を本書内でも実践しているということにも、おそらく大きな要因がある。一通り読み終え、再び本書に目を通したとき、本書内のエッセンスが、思いがけないところで利用されていると実感できるだろう。 本書における「FACTFULNESS」の概念は、現在のコロナ禍における玉石混淆の情報の中でも、正しく世界の現状を見るためのヒントとなるはずである。			
	全部	397P (300分)	314-325ページ	2020/10/24 12:33:28

unknown
 ☆☆	電車の広告や周囲からすごく勧められる割には面白くない本だった。この本の主題は表紙に書いてある通り「世界はそれほど悪くなっていない、ファクトをもとに正しく見る習慣をつけよう」というもので、内容は13個程度の良く勘違いされている事実と思い込みを誘発する10個の本能がひたすら書いてある。世界の現状を知るために読もうとしたが、メインはどちらかというとデータを見る際の注意点だったので期待を裏切られたと感じたと思う。この本で最も面白かった点は謝辞とあとがきを別の人物が描いている点だ。この本はハンス・ロスリングだけでなく妻と娘が共著となっている。医師のハンス・ロスリングが大学や企業、政治団体で講義した内容がまとめられているが、完成を待たずして亡くなってしまったので、著者あとがきは妻が書いている。がちがちにファクトに基づいた本書の内容とは打って変わって、世界を飛び回る多忙な医者を家族が支えていた話や旦那がなくなる前に考えを本にまとめ残そうと焦る妻の心情が書かれていて面白かった。			
-------------------------	--	--	--	--

全て

397P (360分)

326-343ページ

2020/10/20
10:02:18

[TOP](#)△



医療現場の行動経済学

著者名	大竹 文雄ほか	発行年	2018年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	292ページ
値段	2,640円	ISBN	978-4492315071
コメント	生死にかかわる人生の一大決断。でもそのとき、医者も患者もあまりに感情に流されやすく、合理的で建設的な判断ができないことが多い。そこを解きほぐして行動経済学を適用します、え？ 女医さんのほうが患者の生存率高いの？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

sora ☆☆☆	本書では、重大な選択が迫られる医療現場において合理的な意思決定は行われないという観点から、どのようにしてより良い結果へ辿り着くのかを行動経済学を用いて分析している。どのような状況に陥りやすいのか、その状況は行動経済学的にどう捉えられるのか、どう改善できるのかを具体例を用いながら述べているので、何も知らない人が読んでもわかりやすい内容となっている。3部構成になっており、それぞれ、医療行動経済学の説明、患者側の意思決定、医療従事者側の意思決定について触れている。行動経済学について知らない場合は1部から。ある程度の知識を持っているなら2部から。医者の立場なら3部を中心に。など、読む人の知識、立場に応じて部分的に読んでも十分に役に立つと感じた。 全体的に医療従事者向けの内容となっており、患者や自分達のバイアスを意識して、どう向き合うのかという内容が大きなウェイトを占めている。もちろん、医療従事者でない私たちが読んでも得られるものはあり、実際に医療現場での意思決定の際に意識することで良い結果へ繋がる可能性は高いが、私たちがどう行動するかについては深く触れられていない点には注意が必要である。			
	全部	265P (300分)	14-38	2020/11/30 23:07:15

mog ☆☆☆	この本では、意思決定の理屈を理解していれば、それを医療現場でも役立てることができるだろうということが書かれている。人間はバイアスにより、非合理的な意思決定をしてしまうことがある。 この本にでてくるような意思決定と同じような状況にたたされることが今後少なからず1度はあるだろう。その時に、どのような決断を下すのが正しいのかなどをこの本を読むことによりある程度理解していれば、いざその状況に立たされた時も医師への不満や病院との溝を埋めることができると思った。 ただ、この本はさまざまな人の講演をもとに作られているのか、重複している内容があり、少し偏りがある気もした。行動経済学単体の解説ページも多く、もっと医療に結びつけて考えられるのではないかと思ってしまった。合理的な意思決定と感情をどのようにしてバランスをとっていけばいい
------------	--

いのか。医療×行動経済学という考え方は比較的新しいものであるため、今後の進展に期待したい。			
全部	265P (300分)	68-99	2020/11/30 21:22:02

まーピー ☆☆☆	本書は、2014年11月に開催された「がん医療における意思決定研究の必要性和可能性」というシンポジウムにおいて、シンポジストの発表を聞いた大阪大学理事・副学長であった大竹氏の「医療は合理性を前提としてるんですね」の一言により必要性を決定づけられたことで出版されたものである。全3部に分かれており、医療行動経済学とは何か、患者と家族の意思決定を行動経済学的視点からどのように説明できるか、医療者の意思決定にはどのような行動経済学的背景があるのかが述べられている。実際に医療現場に従事したことがなくとも、実例をもとに展開されているためイメージしやすく、医療現場で起こる医師と患者のすれ違いについて行動経済学的に、時には論文で明かされたデータを用いて説明している。 行動経済学的に医療現場で非合理的に意思決定を行う例として、診療現場でよく聞く「ここまでやって来たのだから」「まだ大丈夫」「今は決めたくない」といった会話が紹介されている。これらはただ患者側の医療リテラシーが欠如しているために生じるものではなく、サンクコスト・バイアスや、現状維持バイアス、現在バイアス等により生じるものであり、不思議な行動ではないとしている。また、医療現場での会話だけでなく、がん検診などの予防行動が進まない原因についても参照点や損失回避などの観点から説明しており、患者の非合理的な行動は、行動経済学的に解釈できるのだと主張している。 本書の魅力的な点は、医療現場での医師と患者の会話のみならず、検診などの予防行動を促進する運動や、遺族の方々の心理的変化についても説明しているという点に留まらない。医療従事者側にも意思決定バイアスがかかっているということを承知したうえで議論を展開しているのだ。特に急性期の例を挙げ、診断の正確さや治療の迅速性を求められる際に医療従事者の心的負担について考えており、それにより生じるバイアスについても説明している。加えて、急性期における意思決定では、医師が決定した方向に患者の意思決定を誘導してしまうことについても言及しており、無意識に医師は患者に「権力」を働かせていることもあることについても書かれている。 本書はシンポジウムをきっかけに執筆されたものである。そのため、医療従事者の観点からどうすべきかということについて主に書かれている。すなわち、医療従事者が患者に対して行うべき「ナッジ」に関する記述が多く、患者側がどうすべきかについては深く掘り下げられていない。しかしながら、本書でも述べられているように、医療従事者は人生の大きな選択となる意思決定に携わることが幾度とある一方で、患者並びにそのご家族のほとんどは初めての体験である。そのため、患者には無意識にヒューリスティックスやバイアスがかかってしまうことを考慮し、まずは医療従事者が患者の心理的状況を理解し、対応することが肝要である。本書に記されていることを意識すれば、医療従事者が現場で日常的に起こり得る患者の非合理的な行動を理解するのみならず、患者との隔たりを埋める第一歩となるであろう。また、患者自身にとっても、自分を見つめ直し、合理的判断を行うヒントとなるはずである。		
	全部	265P (180分)	14-37ページ 2020/11/30 15:10:01

たっぴりTARAKO ☆☆☆☆	人間の意思決定は実はまったく合理的でない。いわゆる「合理的な意思決定」から逸脱しているのだが、それには系統が存在し、そのことを学問としたのが行動経済学である。本書はこの行動経済学を医療という分野に当てはめたものであり、医者と患者との溝を埋めるにあたって効果的な一冊である。本書は第一部でまず医療行動経済学についての詳しい記述があるため、前提知識がない読者でも理解しやすい。また、何回も繰り返してくれるため、逆に専門としている人にとったら少しくどいと思われるかもしれない。また、すべての章で実際に医療現場で行われているであろう会話例を載せているため、医療現場とあまりかかわりのない読者でも想像がしやすい工夫がされていたり、データ値や関数がたくさん出てきたときにグラフや表を挿入するなど、全体として読者（特に初心者）を気遣う工夫が見られた。そして内容についてだが、非常に興味深かった。本書では種々のバイアスがあげられていたが、実は私たちも無意識に抱いてしまっているバイアスなのである。ただ、今まで概念としてなかったために、無意識に不合理な行動をしてしまっていたのである。このことを理解しないと、意思決定側でなくゆえに比較合理的な考えをもつ医療従事者とそうでない患者との溝があるのは当然であり、このことをしっかり言語化し医療現場での具体例に当てはめている本書はとても意義があるといえる。 一応、内容が網羅的ではなくどうしても偏りが出てしまうということ、どちらかというと医療従事者側に向けた本という印象があり、患者としてできることはなにか、という知覚を得るにはあまり向いていないかもしれないという点があるので注意しておこう。 この学問および意思決定に興味がある人にはとてもおすすめです。		
	すべて	265P (400分)	2-11 2020/11/30

とつとこハム次郎
☆☆☆☆

この書籍では医療現場で行われる多くの意思決定の場で行動経済学を使うことの有用性を説いている。

人間は誰にも命に限りがある。そんな中で、必ず医療現場で意思決定を行わなければならない。現在の意思決定は患者がするものになっているが、医療の素人である患者に合理的な決定ができるのだろうか。何らかのバイアスにとらわれてはいないだろうか。そんなときに、この書籍を読めば意思決定の助けになるだろう。

この書籍にはナッジという言葉が出てくる。ナッジとは行動経済学の知識を用いて患者の意思決定を導くことだ。医者がナッジを用いることでより合理的な決定に患者を誘導する。これだと、医者が患者を操っていて患者の自由な意思決定を阻害しているのではないかという指摘があるかもしれないが本著ではそういったところも補完されている。

これを読んで損することは絶対ありません。とても濃密な時間になります。ぜひこの本を読んでいただき、大事な場面で意思決定に役立ててほしいです。

1-265

265P (300分)

68-75

2020/11/09
11:25:37

T.K
☆☆☆☆

本書では、はじめに医療行動経済学とは何かが述べられており、その行動経済学をもとにして、医療現場で起こっている諸問題が分析されている。例えば、がん治療における適切な意思決定、患者遺族の後悔をどのように減らすのか、医師の診療パターンの違いなどがある。本書の主張は、行動経済学の考え方にある通りどのような人でもバイアスが存在しており、そのバイアスを利用して特に医療現場でうまく物事を進めようというものである。

この本の立ち読みポイントとして、医療行動経済学の基本的な枠組みが書かれている箇所を挙げたが、個人的に考えさせられた部分は他にある。それは、がん治療における意思決定の事例である。本書では、いたるところに具体例が提示されているが、その中でも特に一際考えることが多かった。なぜならば、自分が患者の立場であったならどうするだろう、自分が患者の家族の立場だったならどうするだろうと想像することが容易で、一番遭遇しやすい事例であるからだ。この意思決定には正解がないのがつらいところである。

この本は、行動経済学の基本的な枠組みを説明してから、医療現場の諸問題の対処について書かれているため、行動経済学を知らない人でも読むことができる。医療従事者はもちろん、患者側である一般人にも自分が患者側であったらと考えさせられる点で、一読の価値がある本となっている。

1-265

265P (240分)

12-44

2020/10/27
21:18:10[TOPへ](#)



2025年、人は「買い物」をしなくなる

著者名	望月 智之	発行年	2019年
出版社名	クロスメディア・パブリッシング	ページ数	192ページ
値段	1,628円	ISBN	978-4295403432
コメント	ちょっと煽り気味のタイトルだけれど、未来のお買い物のカタチのお話です。Amazonやメルカリや、日常的にすっかりなじんだショッピングの背後にはこんなトレンドが動いているんです、という頭のなかをいったん整理してくれるような本。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィー
ル

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

messi ☆☆☆	本書は、世界各国で発生している購買行動やマーケティング戦略の変化を網羅的に捉え、最先端のBtoC企業が現在どのような事業活動にあたっているかを述べている。 タイトルの「買い物をしなくなる」という表現は若干の誇張を感じられるものの、ビジネス初学者や大学生が直近の企業動向を把握するという点では、うまくまとめられた良書であると感じた。身の回りで起きている事象をビジネス観点で記した書籍である分、特に事前知識がなくとも十分に理解できるよう設計されている。 読み進める中で、若干の既視感を感じるかもしれないが、実際に自分で言語化しようと思うとなかなかしにくいような部分について記載されているため、読み進める中で理解を進め、本を読まずとも状況を説明できるようになれば、今後社会人になる上で有用となる知識が得られたと言えるだろう。			
	全ページ	190P (100分)	174	2020/11/29 22:42:31

ヴィーキ ☆☆☆	「買い物」しなくなる、と聞いてベーシックインカムのようなかたちで全て支給品になるのかな、と少し予想して読み始めましたが良くも悪くも予想を裏切られ現在から未来への買い物の形の変化、そして「買い物にかかる時間」がなくなることについて説明していました。予想と少し違っていいのは残念でしたが、これはこれでおもしろい話だったと思います。実際に我々が使っているアップルミュージックやネットフリックスを例に出したサブスクリプションの話や、5Gを絡めた未来の買い物の形の予想を読んでいると、将来の買い物がどのようになるのが興味がわきました。多くの要素について語っていて読んでて面白い部分もありましたが、おなじようなことを別の言い方してるだけじゃ？と感じる部分があったり、最終的な結論がすごい抽象的だな、と疑問を持つ部分もありました。身近な話が多く例としてでてきていたので、読みやすさはありました。真面目なビジネス本などがまだ得意でない人も読める本だと思います。			
	全部	190P (120分)	168-171ページ	2020/11/29 19:45:54

unknown	私は買い物なくなるなんて信じられなかったためこの本に興味を持ったが、この本での買い物というのは「実際に店舗に行ってモノを買う」ことを示しており、「何かに対して金を支払ってその対価を得る」ということではなく、少し期待外れであった。この本のいうところの「買い物」は数ある買い物の方法の中の一つの方法を指しているだけであり、少しタイトル詐欺のような感じもした。 また、書いてある内容が当たり前極まりないと感じた。今の時代なら容易に理解、創造できることをあたかも革新的な変化であるかのように横文字で表現し、誇張しすぎていると感じた。また、表紙に書いてある文言も大げさだと感じた。帯に「衝撃予測！」と書いてあるが特に衝撃もなく、当たり前の内容であった。特に新しい知見を得られる本だとは感じなかったためおすすめ度は1にした。しかし、経営という面からみると、これからの買い物のあり方を再確認できる本であると感じたため、確認のため読むということならありだとは思ふ。			
☆	1-190P	190P (300分)		2020/11/29 11:39:14
やや酔	正直私はこの本が嫌いだ。だからおすすめ度は最低の1とした。全体的に不満の多い本であった。まず、タイトル詐欺の甚だしさに腹が立った。「2025年、人は「買い物」をしなくなる」というタイトルを見てそんなことないだろうと思って手に取って読んでみたら案の定そんなことなかった。「買い物の仕方が変わる」という予想を「買い物しなくなる」と言い換えているあたりに腹が立った。次に、内容の平凡さである。初版の発刊はちょうど昨年の今頃である。よって遠い昔の未来予想ではなく、わりと最近の未来予想の本である。そのわりに言っていることが既知のことばかりで落胆した。体験型の店へ変化やインターネットショッピングの需要の増加等、少し前から世間で言われていることについて触れられていたが、読んでいてこの情報は目新しいと思ったり、その発想はなかったと思えたりする箇所がなかった。そのため読んでいて退屈であり、読破すること自体がきつかった。			
☆	1-193P	193P (240分)	特になし	2020/11/25 21:22:02
児島競艇	買い物の手段の移り変わりと最新の技術をもとにして未来では買い物がどうなるのかを予測した本。企業の戦略についても書かれているので消費者の目線ではなく、販売側の目線として読んでも面白い。 特に面白かったのが、プライベートブランドが盛り上がっている現在で既存のメーカーがとっている戦略について。コンビニやスーパーではプライベートブランドの取り扱いが増えて既存のメーカーの商品が減ってしまったのでメーカーがD to C(メーカーが小売店を通さないでオンラインショップなどで直接消費者に販売すること)に戦略を変更したのはとても納得したし勉強になった。 とても勉強になる内容があれば、既に知っている内容もあったので、人によっては内容が薄いと感じるかもしれない。 タイトルに書かれてある、人は「買い物」をしなくなるというのは、本当に買い物をしなくなるのではなく、買い物をする感覚がなくなるだけというだけでタイトル詐欺に感じてしまった。			
☆☆☆	全部	190P (200分)	80-93	2020/11/15 17:07:02
toittoi	題名を見たときには買い物のをしなくなったら何をするんだ？と疑問に思いつつ読み始めたが実際は買い物とは店に行き、商品を探し、購入という一連の流れを示していることだった。そして、本書では買い物の一連の流れの消費者が面倒くさいと感じる部分がどんどんなくなっているということを示している。この例をあげると、店に行く、という行為は今ではスマホで自宅からというものに移り変わってきた。また、商品を選ぶのはAIが自動で行ってくれるというもになった。 このほかにも、買い物が変化するとともに企業も戦略を変化させてきたことが書かれており、テレビコマースからインスタグラムやYouTubeへ広告の場所を変化させたり、今までは店舗の棚を競い合っていた企業は現在はスマホでいかに自社の商品を見てもらえるかの時間獲得へ変化していったことが詳細に書かれている。 本書では成功した企業の戦略が詳細に紹介されているので、経営に興味がある人には面白いし、勉強になる一冊だと思う。しかし、人によっては当たり前と思う内容のことも多かった。			
☆☆☆	すべて	190P (250分)	132-140	2020/10/30 10:31:02

unknown
☆☆

正直初めて見たときは「胡散臭いタイトルだな」と感じた。
「買い物」をしなくなるというのは感覚的な話で少し騙されたような気がした。所有しないという価値観が一般的になっていくことや、ネットショッピングの台頭は想像していた通りであった。また、1章は筆者が読者の考えを自分の考えと同じように強引に塗り替えようとしているようであまり気分がよくなかった。
2章以降では買い物の歴史と変遷、これからどうなるかについて書かれていた。どのようにショッピングの形態が変化していったのかが特に興味深く読んでいて面白かった。2章、3章は勉強になるような事実が多く、読むべきポイントと言えるだろう。
タイトルにインパクトがありそれに惹かれた分、タイトルへの期待を超えてくるようなことがなかったので少し残念ではあった。表紙や、本自体のレイアウトはとてもよく計算し尽くされており、これが「売れる」デザインかと感心した。

全部	190P (180分)	表紙	2020/10/28 22:29:29
----	-------------	----	------------------------

[TOP](#) ^



お金2.0 新しい経済のルールと生き方

著者名	佐藤 航陽	発行年	2017年
出版社名	幻冬舎	ページ数	263ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4344032156
コメント	話題のビットコインとか、シェアリング・エコノミーとかを知ったかぶりするための解説本はいっぱいあるけれど、この本がすぐれているのは、目先の流行のバックには、どんな発想の変化があるかをきっちり分かりやすくほどいてみせてくれていることでしょう。 全部が正しいとは言えないかも知れど、哲学にまで踏み込んだ「深さ」は一読の価値じゅうぶんにあり。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

virus ☆☆	まずこの本は専門用語を出来るだけ使っていなかったという点に着いて初学者にとってはとても抵抗がなく読みやすいなと思いました。逆にそういう意味では詳しい人にとっては口説いものだと思います。 内容に関してですが、自分はよくお金や価値について考えることがありました。お金、価値という存在についてです。その考えていたことがまんまこの本に出てきていたので自分としてはあまり読んでいて新鮮味があまりありませんでした。特に第1章お金の正体に関しては約100ページあるうち8、9割型知っているor考えたことがあることだったので読んでいて得られることがほぼありませんでした。また第1章ではどこに向かっているのか分かりにくく、お金の正体についてダラダラと書いているなと思ったので苦痛でしかなかったです。 この本の重要な所は第4章からの儲けることを目的とすると稼げず、情熱を傾けられるものを見つけることで独自性が生まれ結果的に儲かるという事です。正直この本はここから読みさえすれば良く、その前の部分は読む必要ないと感じました。しかし、日頃からお金や価値に着いて考えていればYouTubeの例など簡単にわかることなので、この章も絶対読んだ方がいいという程でもなく、なんならこの本自体そんなに得られることはないと思いました。 あまりお金や価値のことを考えたことがなく、お金、価値ってなんだろうって思い、知りたい人は導入としては読みやすいのではないかと思います。しかし一方で少し考えれば分かることが多いので総評として自分はあまりオススメな本とは言い難いなと思いました。			
	1-108,147-263	225P (180分)	213-232	2020/11/30 17:31:28

雨男 ☆☆☆☆	お金は、ともすれば自分の生死に直結するものであり、使わない日はないと言っていいほど私たちの身近にあるが、それがどのように使われ、どのような仕組みで流れているかといったことを、我々のような一般市民は、あまり気にしていないと思う。 この本のタイトルは「お金2.0」であるが、その前提条件の、いわば「お金1.0」についても説明が丁寧である。なぜお金が長い歴史を持ち、どういった理由でこれほどまでにお金が社会に浸透、いや社会がお金に浸透しているのかということを、人間の本能という観点から、非常に明快に分かりやすく説明している一冊だと思う。もちろん「お金2.0」についても手厚い。ブロックチェーンや
------------	--

	価値主義について、「聞いたとことあるけどなんだよそれ」という理解レベルから、「まあこういう感じの仕組み/考え方だよ」くらいのレベルにまで上げてくれる。 最後のほうには、お金が今後どういう進化をしていくかの解説があるのだが、「まあ今までの話からしたら当然の帰結だよな」というものか「いやそれは突飛じゃない？」というものかしがなく、二極化しているくらいはあるが、前者に関しては、これまでの丁寧な説明の賜物であるということを目をつぶりたい。		
	全部	250P (60分)	太文字全部 2020/11/30 14:02:25

usg ☆☆☆☆	お金はなくてはならないもの、ではなくなる。そんな未来はもうそこまで来ていることをこの本では述べている。 資本主義経済と呼ばれる現代は物事の価値をお金に換算して測っているといえるが、果たしてそれでいいのだろうかという問いを立てた。この本の著者は、これまでの貨幣制度の歴史やテクノロジーの進化を踏まえながら新しい経済圏の創出が今起こっていることを示し、今の若者達にはお金という価値基準に縛られない生き方をして欲しいと主張している。 具体的には、YouTubeやUber、といった新規産業はシェアリングなどといった分類に分けられるが、実際はすべて人間の本能に準ずるサービスを展開していて、それに伴い新しい価値基準、例えばSNSのフォロワー数といったお金とはまた異なる価値に未来の光明を見出すことにより、お金の縛られない生き方を選ぶ、つまり経済圏を自分で選択し生きることを推奨している。 お金ってなんだろう？ お金以外で物事の価値を測れないのか？ など疑問を抱いている人や、将来起業したいという人には必読。		
	全部	250P (240分)	後半、太文字全部 2020/11/29 15:46:51

ヴィーキ ☆☆☆☆	難しい用語をできるだけ使わず、もし難しい用語が出てきた場合はできるだけ説明をしてくれているため、このような本をあまり読まない自分でも理解しやすかった。現実世界などの例えを多く活用してくれていたのも大きいのかもしれない。内容についてはこれからの未来では経済がどのようになっているのかという話だったが、これを読むと自分があと100年も生きられないことが悔しくなるくらい人類がこのさきどのような発展をしていくのかすごく興味がわいた。特に印象に残った部分がp.221からはじまる、「「儲かること」から「情熱を傾けられること」へ」の章で何かに熱中している人ほど結果的に利益を得られる、というような内容の話だったが、近年よく言われる、やって楽しいこと、好きなことを仕事にするべきだという考えはこのような話がもとになっているのかなと思った。自分は今までお金があることが幸福に最も近いと考えていたがこの本を読んでそのような価値観についてすごく考えさせられたので、資本主義に染まった人に特に読んでほしい本だと思った。		
	全部	263P (240分)	221-225ページ 2020/11/28 16:21:34

けん ☆☆☆☆	一つの項目が短く、スキマ時間に読める。主に伝えたいことが、太字になっていて、後から見返す時も、太字をたどっていけば見つけやすかった。 この本は、テクノロジーやそれによる経済や人の生き方の変化についてまとめた本である。AIやブロックチェーンの開発によって、暗号資産ができたり、誰もが人を集めて独自の経済システムを作ることができるようになり、今まで国が管理する通貨のもとで価値を蓄えていたが、価値を蓄える場所も分散してきていて、自分の経済圏を自分で選択できる世の中になってきている。また、AIによって単純労働も自動化され、したくない仕事をする必要もなくなり、ベーシックインカムや大企業によるほぼただに等しい生活インフラが提供され始めるのも時間の問題ではないかとも述べている。このようになると、お金の価値は下がり、精神的な充足感などの内面的な価値や他人や社会の役に立つという社会的な価値が上がってきて、資本主義から評価主義というものに変わってきくことも考えられるそうだ。一見、お金や経済と関係のなさそうな新しい時代の生き方のについても提案してくれる本となっている。 正直自分は、やっとQRコード決済を使い始めたぐらいであまりテクノロジーと経済の進化についていけないことに気づいた。また、安定した将来のために今までしたくない勉強をして東工大まで入ったが、筆者の言う通りこれからの時代では(まだまだ未来だとは思うが)安定は保証されたも		

同然になるならば、自分が何が好きで、何を突き詰めたいかを知り、実行していく力が必要になってくと思う。現在では、お金には変わりにくいTikTokなどで投稿をしている人が増えていることも、お金ではない自己実現などといった別の価値に移りつつある例として考えられるのではないかと感じた。

そのような社会に本当になれば、教育の形も大きく変わってくるのではないと思う。従来型の苦手をなくすことに重きを置いたり、暗記中心であったりする教育システムが、自分の好きなことを見つけ、伸ばしたり、他の人とディスカッションしたりしてより膨らませていく力を育む場も提供するなどだ。皆が自分が興味のあることを伸ばして社会に貢献し、発展していけるという素晴らしい世の中になって、皆が幸せを感じるようになってほしい。

1-263

263P (310分)

第4章「お金」から解放
される生き方

2020/11/24
13:04:58

[TOP](#) ^



AI vs. 教科書が読めない子どもたち

著者名	新井 紀子	発行年	2018年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	287ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4492762394
コメント	そうか人工知能って、こういうふう「考えてるフリ」をしてるんだ、ということが、しっかり得心できます。何億個もの「例文」を事前に仕込んでおいて、それをパタパタパタッと検索して、いちばん「当たりそう」な答えを統計的に導いてくるのね。だから東ロボくんはMARCHにしか合格できないんだ。 と、そこで優越感に浸るのは、まだ早い。AIに仕事とられてフリーター。産業構造がガラガラと変わってしまうのは確かなので、これからの仕事選びには、おおいに有益な視点です。 問題をするする解いていくうちに読み進められるのは、さすがベストセラー。ただ、信念にもとづく本なので、やや結論先走り気味です。そこはAIでなく、しっかり自分の頭脳を使って考えて、業界選びをしてください。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

sora ☆☆☆☆	本書では、前半にAIの能力について、後半は人間の能力について、最後にAIと人間の労働における関係の変化について述べている。 特に、前半では、AIの理解を深めながら、世間で期待されているほど万能ではないということを知ることができる。後半では、AIでは代替できない能力を人が持っているかについて調査を元に論じている。 私が衝撃を受けたのは特に後半の部分で、東工大の環境の中ではあまり認識することができない読解力の現状である。本書ではこの現状を元に、万能ではないAIに人間が代替されてしまう危機を説いていて、私がAIに職を奪われる意味を勘違いしていたことを認識した。 工学的に難しすぎず、わかりやすい形でAIを知ることができ、危機感を煽る形でなぜ仕事を奪われるのかを説明する。本書がベストセラーになったのはこの構成が多くの人の理解に繋がったからではないだろうか。 読みやすく、簡単に理解できるという点で、一読するのをお勧めしたい。		
	全部	287P (210分)	199-210 2020/11/30 23:43:47

bora ☆☆☆☆☆	AIといえば「将棋でプロに勝った」だとか「将来様々な職業で代替してしまう」だとか、よく言われていて、かなり万能なイメージが定着しているといえる。 しかしこの本は、人工知能「東ロボくん」が東大合格を目的にしたプロジェクトや、その過程で行われている全国の学生を対象に行われている読解力の調査をもとに、AIにはできないことを追求し、人間がこれから身に着けるべき能力について、丁寧に書かれている。 AIについてひたすら考察する本でなく、AIについてあまり知らない人でも読める、AIの対する誤解や過大評価を解いて、理解する本となっているからこそ、この本はベストセラーになったのだなと呼んでいて実感した。 個人的に印象に残った部分というと、著者が徹底的に調査に踏み切ったことだ。全国の学生に様々なテストを課し、その結果を議論したり考察することは、タイトルの「教科書が読めない子供たち
---------------	---

	ち」の「今」を知ることができて最も効果的だと思うが、それ以上に予算も時間も方法も必要だ。だからこそ、この調査による研究の成果には大きな価値があると思う。 この本を読んで自分に足りないものに気づく人もいれば、「そうなんだ」という感想を持つだけの人もいるかもしれない。それでも、AIの現実を正確にはっきりと知ることのできる良書だと思う。			
	1-287	287P (400分)	250-252	2020/11/30 16:58:37
miru ☆☆☆☆	本書はタイトルではAIと人間の能力を比べる本のように見えるが、東京大学入試合格を目指したAI、「東ロボくん」を開発していた著者が、「東ロボくん」の開発エピソードや他のAIについて話を交えながらAIに詳しくない人の多くが持っているであろうAIに対する誤解を解くための本となっている。この誤解の修正は本書で初めて知った内容が多く、根拠のないAIに対する噂を否定しているものなので、AIについてあまり知らないという人こそ読むべき本となっている。 前半では、まず今のAIが人間のように自身で自由に考え動くといったことは出来ず、AIはプログラム上の計算をするだけの機械であり人間より得意なことがあっても人間が出来てAIが出来ないこともあり何でもかんでも出来るものではないという事を述べている。また今のAIがどのように発達し、現状どのくらいなのかを述べ、AIが人間の知能を超え、人間の全ての仕事がAIに置き換えられること、「シンギュラリティ」の可能性を否定している。だが、半分以上の人はAIに学力で負けていると説明していた。これに対し私は、AIはインターネットから調べた知識などを利用して問題に答えているのに対し、人間は自身の頭の中の知識だけで答えているのでこれは不公平な比べ方をしていると感じた。 後半では、人間の学力の低下している部分が、AIの苦手としている部分と似ていることを指摘し、半分以上の人間がAIに負けていることを説明していて、多くの人が職を奪われると説明していた。			
	全てのページ	287P (300分)		2020/11/30 11:57:54
たっぷりTARAKO ☆☆☆☆	本作の著者である新井紀子さんはかの有名なプロジェクト「東ロボくん」の第一人者であり、そのプロジェクトを通して、AIができることは何なのかを分析し、現代の教育へと始点を向けることでこれからの未来の在り方を考察し、教育現場に警鐘を鳴らすというものである。印象的であったのが、我々はAIの能力に対してかなり勘違いをしていたということである。囲碁やチェスなどのゲームで人間がAIに負けたというニュースを目にしているからか、私たちはメディアなどを通して漠然と「AIは何でもできる」という印象を持っている。なお、実際に私もそうであった。だからこそ「AIは意味を一切理解していない」という記述は、確かに当たり前ではあるのだが、驚かざるを得なかった。結局のところ、AIは計算器であるため、確率的・統計的なことに関しては強くて人間同様の知能には及ばないのである。ひとの内的な情報処理プロセスをモデル化しようとした認知主義の限界が顕著であることを考慮すると、「なるほど」の一言である。そのことを理解すると、「ではなぜ仕事がAIにとってかわられるのか？」という疑問にたどり着く。そこから中高生の読解力ヘテーマがシフトしていくのが見事であると思った。ただ、読解力をRSTというテストのみで測れるのかという疑問や読解力の低下という割には比較データのようなものがあげられていなかったという点にたいする不信感は少し残った。結局読解力を向上する手立てにもあまり触れられなかったことも気になった。が、全体的にはとても分かりやすくまとまっていて持っていきたい結論も明確であった。一つの価値観としてぜひ読んでほしい一冊である。			
	すべて	287P (360分)	271-281	2020/11/30 11:44:08
messi ☆☆☆☆	昨今よく耳にする「AI」という単語。本書は、それに対して人類が抱いている誤解を解くと共に、AIが発展する中で人類が身に着けるべき能力や、現状の教育に対する警鐘、そして最新の研究動向を踏まえた今後の動向について解説している。 内容としては、専門知識を持たない読者でも容易に理解できるよう、私生活に即した具体例や、高校数学の知識を逸脱しない程度の数学的論述が用いられている。 個人的には、大学受験を終えた学生が、これまでの学習で身に着けた思考力や知識を社会にどう役立てていくか、を考えられるような良書となっていると感じたため、是非読むことを勧めたい。			
	全ページ	287P (100分)	274	2020/11/29 21:51:27
usg				

☆☆☆☆

世間でAIという言葉が頻繁に引用されるが、その多くは誤りである。
AIは神になる、AIはいずれ人類を滅ぼす、シンギュラリティが到来する、なんてことは将来起こらないことを、この本では明確に断言されている。
前半ではその理由がAIの特徴を交えながら解説している。筆者自身がAIに関する研究を通して得た知見をも元に、論理的だが分かりやすくAIの得意なタスクについて解説し、AIに関する世間の憶測を否定している。
後半では人間、特に我々のような学生に焦点を当てた問題について論じている。AIは簡単にいうと、文章問題が苦手であるのだが、実は最近の中高生や大学生も同じように文章題が苦手だというのだ。そのデータを本書ではかなり細かく知ることができ、とても興味深い内容となっている。
最後に、この本はそういった事情も踏まえて、かなり読みやすい本となっており、スラスラと読み進めることができる一冊である。AIに関する実用性よりかは、AI研究の現場視点の現実的な意見を述べているので、ぜひ読んでほしい。

全部	281P (150分)	280ページ	2020/11/25 18:04:43
----	-------------	--------	------------------------

unknown
☆☆☆☆

昨今の世の中では「AI時代の到来」、「シンギュラリティ」などと叫ばれています。ただ、多くの人出をAIが担う時代が来るのが避けられない未来であったとして、具体的に我々はどうな事態に陥るのか、どのような対策をすれば良いのか、よく分からない人も多いのではないのでしょうか。
本書では数理論理学の専門家である著者がまず、そもそもAIとはどのようなもののなのかについて述べています。そして、そのAIの特徴を踏まえた上で、AIにはできずに人間にはできる仕事は何か、そのような仕事に就く、若しくはそのような仕事を生み出すにあたって、今の我々が抱えている問題は何か、更に、その問題が解決されなかった場合、どのような未来が待ち受けているのかが述べられています。
途中のAIの特徴に関する部分は専門的な内容が多いのでやや難解かもしれませんが、多少大雑把な把握でも全体の理解に支障はないと思われます。重要なのはその後の部分です。AIが凄まじい勢いで社会に浸透していく中、今後我々にはどのような能力が求められるのか、どうすれば未来で生き残れるのか、詳しく明瞭に述べられています。今の社会を生きる多くの人々に読んで頂きたいです。

全部	287P (300分)	271-274	2020/11/17 00:49:54
----	-------------	---------	------------------------

pannda
☆☆☆☆

この本はAI技術の可能性を誇張し意見を述べ不安を煽るようなものではなくAI技術、子供の読解力の現状を把握したうえで今後世界がAI技術によってどのような影響を受ける可能性があるか、その影響のうち解決しなければならないものについては、どのようにすればその影響を少なくできるかについて書いてある。
全体を通して論理が分かりやすく難しい単語もあまり用いていないので普段本をあまり読まない人でも読みやすい本であると感じた。
また、AIの単純な強みや弱みが簡単な理由とともに書いてある(AIは単純作業が得意なので・・・のように)のではなく「東ロボくん」(東大合格を目指すロボット)の開発の過程で見つかったAIの強みや弱みが書いてあるので具体的にとても説得力があると感じた。
ただ、調査やAI技術に関することが結論ベースで書いてあるのでこの本を読むだけでAI技術や子供の読解力について完全な理解をすることは出来ない。そのためAIや子供の読解力に関する本や論文などを合わせて読む必要があると思う。

1-287	287P (200分)	271-274	2020/11/08 11:52:36
-------	-------------	---------	------------------------

[TOP](#)



シン・ニホン AI×データ時代における日本の再生と人材育成

著者名	安宅 和人	発行年	2020年
出版社名	NewsPicks/パブリッシング	ページ数	444ページ
値段	2,640円	ISBN	978-4910063041
コメント	悲観的現状データと明るい未来提言が、著者の熱意を接着剤にして仲良く同居しています。今はこんなにキビしい状況→でも、あきらめたら試合終了→こうすれば、きっと良くなる、という論法。人材育成=教育がメイントピックなので身近な話題です。 総花的にぶちこんだぶあつい本なので、パラパラめくって気になるグラフやキーワードをインデックス的な読み方がおすすめ。〇〇ページに、ほんとに「東工大」が登場しますが、事実とちょっとズレてる気が。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数 (時間)
立ち読みポイント

投稿時間

unknown
☆☆☆☆

これまで読んで来た本の中で最も衝撃的で、面白くて、論理的な内容でした。筆者の安宅さんの圧倒的な知識と深さとその洞察力、日本及び地球の将来を思う気持ちに感銘を受けました。この本の切り口はAIを中心としたITが普及する世界で、日本は依然として人材不足、投資不足、研究力の低下などなど絶望的とも言えるような状況であるがこの状況から再び世界的なレベルに上り詰めるにはどうしたらいいかを包括的な知識とデータに基づいて考察していると同時に、読者はみっともないとも言える日本の状況に落胆してしまうかもしれません。しかしここが正念場だと言わんばかりにこれからの日本がどうあるべきかを誰にでもわかりやすいよう噛み砕いて説明してくれています。僕も本の前半部分で日本の現状を目の当たりにした時は「おわった、」と思いましたが読み終わった後は「日本はギリ持ちこたえるかも？」という希望を少し抱きました。一番興味深かった内容は日本の大学のドクターの（PhD）の扱いで、進学するにも金がかかるし卒業できたとしても就職先が見つからない可能性があり、このような現状から日本の優秀な研究者は海外に流出してしまうという負のスパイラルの極みと言ってもいいくらいの状況に後期博士課程への進学も視野に入れている自分としては残念で仕方なかったですし、大学の先生方も科研費不足や人材不足に悩まれているのを見るといたたまれない気持ちになります。僕も個人的に教育費と研究費は最もプライオリティが高いと考えているので、なんとか政治家の人に国家予算の見直しを図って欲しいところです。			
1-435	435P (300分)	全部	2020/11/30 23:20:47

けん ☆☆☆☆	「この国は、もう一度立ち上がれる。」そんな印象的な表紙のフレーズにまず目が行った。読む前は、「日本ってそんなにやばいのか？」という疑問をもってしまったが、このような危機意識の薄さがある種の危険信号であるということがこの本を読み進めていくとわかる。		
	会社の時価総額ランキングの推移を見てわかるように、かつては製造や所有の会社が強		

かったが、最近では情報など物理的な限界がない物を持つ会社が強い。このようにAI✖️データの時代になった。しかし、この流れに日本は遅れをとっており、危機的状況になっている。しかも、それに対して日本人はあまり危機感を感じていないとも指摘している。このような状況だからこそ日本は再び立ち上がれると述べている。歴史を振り返ってみると、日本人は昔から漢字からひらがなやカタカナを発展させてきたり、産業革命の時も外国の知識を積極的に取り入れ近代化を達成した。これらに共通することは、基礎となった考えは外国由来であるということだ。情報産業革命とも言われる今の流れにこそ乗り遅れたが、得意な応用や発展を通じてここからの日本は強くなる希望はあるそうだ。ただし、ただ楽観視しているだけではいけない。過去成功したのは、現状の問題を把握し、その対処に対して尽力したからである。再び日本が世界でリーダーシップをとっていくには、その過程が必要不可欠である。また、現状の税金の使い方についても指摘をしている。過去頑張った高齢者だけでなく、もっと研究開発費など若者や未来にお金を回さなければ日本は終わってしまうと述べている。

自分は、世界での日本の影響力などにはあまり興味がない。人類がより暮らしやすく、より幸せになることが持つべき理想だと思っている。日本は機械や半導体が強く、AI✖️データを活かすのもっとこれらの強みをいかせ、世界に貢献できるのではないかと考えている。また、日本人は生産性が低いと言われている。AI✖️データの活用で、仕事の効率が上がり、日本人一人一人が自分の時間をしっかり持てるようになってほしい。アイデアは、忙しい時よりも暇な時に思いつくものであると思う。作者曰く、日本人は「妄想力」が高いのだから、もっと良いものがたくさん生まれてくるのではないかと思う。自分も、世界の現状の一部を知ることができたので、世界に貢献できる人材になるためにも努力をしていきたい。(自分は将来、お金持ちになったら、廃町を買収してテクノロジー特区を作りたいと妄想しています。笑そのためにも頑張ります)また、日本人の大学生で理系の割合は2割しかおらず、データサイエンスに必要な統計、微積、線形の知識を持った人も研究費も少なく、他国に遅れをとっていて、今後も人材や技術の不足が危ぶまれている。自分はその数少ない理系学生であるがあまり線形を理解していなくて、危機感を感じたので、頑張りたい。

〜疑問〜

日本人は発見段階ではあまり活躍できないが、「妄想力」によって発展・活用において大活躍すると述べていたが、その妄想力がなぜ新たなテクノロジーの発見につながらないのかという疑問が湧いた。「日本はこれから立ち直せる」というには、裏付ける理由が日本人の特徴や歴史などが多く科学的ではないのではないかと思った。

1-437	437P (440分)	第2章3節「国力を支える科学技術の急激な衰退」	2020/11/07 17:03:09
-------	-------------	-------------------------	------------------------

unknown

☆☆☆

脳科学者→コンサルタント→ベンチャーCSOという経歴を持つ、頭がキレキレな人が2020年に出した本で、AIやビックデータに対してどんな人材が必要とされるかが書いてある。とても分厚く内容も重いが、ここ5年くらいのニュースの詳しいデータがたくさん載っているの、情報や価値観を最新にアップデートするのにうってつけだと思う。この本の前半は人間の仕事がAIに奪われることが中心に書いてあり、どんな職種が危ないかという表面的な話ではなく、元脳科学者として脳のどの部分でどのように考えると機械にはまねできないか（例えばAI vs プロ棋士について、AIは平均37手あるチェスをする際、37の15乗の計算を行い15手先まで読んで期待値が最も高い手を論理的に選択するのに対し、人間は過去の対戦で得た印象の蓄積を利用し、直感で選択する）が面白かった。東口ボ君(東京大学合格を目指すAI)が最近、横浜国立大学を合格したこともあり、東工大に受かるだけの能力もAIで代替されうる危機感を持っていたので、右脳思考、デザイン思考を大切にしていこうと考えさせられた。

全て	437P (600分)	20-65ページ	2020/10/20 10:56:17
----	-------------	----------	------------------------

[TOP](#)



この世で一番面白いミクロ経済学

著者名	ヨラム・パウマン	発行年	2011年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	217ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4478013243
コメント	経済と名の付く授業はイッコモ取ったことはありません、という超初心者さん向け。 絵ばかりで読むとこほとんどない超お気楽そうなつくりだけれど、侮るなかれ。コメントがなかなか本質的で深かったりします。ミクロ/マクロ、どちらからでも。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィー
ル

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

ウインディ ☆☆☆☆	この書籍では、ミクロ経済学、単純なゲーム理論をコミカルな漫画とともにわかりやすく解説している。初学者が、経済学がどのような考え方なのかを理解する上では良い書籍であると思う。ミクロ経済学を履修していた自分にとってもこの書籍を読む中で、得られた知見がどのような例で、社会的に用いられているかをイメージすることができることができた。「ミクロ経済学の最大の問題は個人が利得を最大化しようとしても、社会全体に良い結果をもたらすとは限らない」という記述があったが、実際の社会を予測する難しさを示説明する良い説明だと思った。 この書籍は初学者向けに作られた入門書だといったが、概念の抽象的な説明に対して、数値やグラフの例が少々少なく感じた。これは数学が苦手な初学者に対する配慮なのかもしれないが、基礎的な数理の知識もなしに科学を学ぼうとするのは愚かであると思う。また、経済学のけの字も知らないような人がこの本を読むと、聞きなれないような言葉がいきなり飛び交ったりして困惑すると思うので、タイトル付けにも注意が必要なのではないかと思う。			
	全部	217P (120分)	3-14	2020/11/30 23:33:40

8888 ☆☆☆☆	この本はミクロ経済について内容を網羅しつつ、難しい部分を適度に省いて読みやすくしておりミクロ経済について概要を抑えたい人には適した本だ。すでにミクロ経済についてある程度の知識のある人にとっても、授業などでは個別に解説されることの多いゲーム理論や競争市場について一冊にまとめられているので話の流れに沿って整理し、関連性をとらえ直す良い機会になるだろう。この本はミクロ経済についてお笑いを交えて漫画形式で面白く説明するものであり、説明の中でも絵やセリフで笑わせに来る。日本語訳版であるが絵や内容は共通しているので視覚的にも楽しめる。ただし、言語や文化が違うせいなのかいくつか笑いどころのわからないネタも存在した。さらに漫画形式といっても日本の漫画と比べて吹き出しを用いなかったり少し読む順序が違ったりする。しかし、ミクロ経済について知るのには差し支えないだろうし視覚的に楽しめることには変わりはないだろう。			
	すべて	217P (90分)	194-203	2020/11/30 21:48:55

ニャンコ
☆☆☆☆☆

この本は、ミクロ経済学を図を効果的に用いてまた読者が飽きないようにネタを交えながら説明している。マンガを読みながらミクロ経済学を学べる、そのような感覚で読むことが出来た。量はそこまでのないが、ミクロ経済学の全体の流れを把握するのに適していると感じた。抽象的なミクロ経済学を、具体的な話を交えながらうまく説明することが出来ていて、とても理解しやすい本であると感じた。初学者が本格的に勉強する前にこれを読むことで、本格的に勉強を始めた時の手助けになるだろう。中高校生にこの本を読んでもらうことによって、多くの人に経済学は面白いと、興味を持つきっかけとなる可能性は大いにある。もともと、高校の時から経済については興味があったが、経済学の本をよんでも難しくてあまりついて行くことが出来なかった。しかし、高校の時にこの本をよんでいれば、ミクロ経済学についての興味と理解が今よりもっと深まっていたかもしれない。早いうちに読んでおきたかった。

1-217	217P (120分)	117-126	2020/11/30 16:16:47
-------	-------------	---------	------------------------

PNJ
☆☆☆☆☆

217ページもあると思うが、イラストが多く、1ページあたりの文字量は多くないし、また対話形式であるからコミカルな感じが苦手でないならば読みやすいと思うし理解もしやすいと思う。ミクロ経済学をしっかり学びたいのならば他の本をおすすめするが、ミクロ経済学を初めて勉強するならば、この本で学べばミクロ経済学がどういうものなのかを把握できるので初学者にはとてもおすすめできる。
chapterが16と結構わかれてしているので、1日1chapterずつ読んでいくなど少しずつ読んでいくこともできるのもいい点である。

全部	217P (150分)	3-14	2020/11/29 19:56:01
----	-------------	------	------------------------

じょおおおおおん
☆☆☆☆☆

この本のおすすめポイントは対話形式になっていて読みやすくなっているということである。しかもその喋り方が解説風とかじゃなくてこちら側と同じようなしゃべり方だったりして読者と同じような目線で書いてくれているからとても読みやすいと思った。経済学の本は簡素な解説の本が多いのだが、この本は絵がついていて、楽しく経済学を学べると思う。ミクロ経済学というのは本来分厚い辞書のような本まるまる一冊分ぐらいの分量があるのだがこの本は200ページ程度でしかも漫画で描かれている、このようなことは作者がミクロ経済学を本当にわかっていないとできないだろう。売りが経済学の重要な考え方について、シンプルに、正確に、そして楽しく説明するといつてその通り、根幹の考え方を学べる。まだあまり経済学についてわかっていない人が初めて経済学について知るのにおすすめの本である。興味を持ってもらうために少しだけ紹介すると、経済学では個人個人を最適化する個人という風に扱うのだが、そのイメージを読者によくつけるために身勝手に自己中心的なクズやろうとって黒字で協調までしている。

全部	217P (360分)	4	2020/11/28 01:55:37
----	-------------	---	------------------------

pannda
☆☆☆☆☆

この本では経済学の10大原理のうちのミクロ経済学に関わる7つのことについておおよそ書いてあるのでミクロ経済学がどのようなものなのかやミクロ経済学の全体像を把握するにはとても適している本だと思う。また、イラストが多く文字が少ないので一気に読むことが出来る。そのため、授業でミクロ経済学について学んだけど忘れてしまった人や今までミクロ経済学に全く触れてきてないけど経済学に興味がある人は隙間時間に読むとミクロ経済学に対しての理解が深まると思う。更に項目ごとに書かれているのでどこか一つの分野について読んでみて自分に合っているか確かめ読み始めることが出来る。ただ、少し説明が不十分なところも多少あるので全部理解しようとせずに読み、興味のある分野について詳しく知りたい場合はしっかりと本で学ぶことをお勧めする。この本でミクロ経済学についての復習が出来たのでマクロ経済学の本やミクロ経済学のしっかりとした本を読みたいと思う。

1-217	217P (70分)	4-14	2020/11/27 16:40:59
-------	------------	------	------------------------



この世で一番面白いマクロ経済学

著者名	ヨラム・パウマン	発行年	2012年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	232ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4478017838
コメント	みんなが一生懸命努力してるのに、世の中が良くならないって、どうことなの、ねえ！ そのカラクリをしっかり教えてもらえます。しかも爆笑しつつ。経済学の授業を受けていて迷路に入った気がしたら、ここで原点を確認するのもアリ。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

miru ☆☆☆☆	本書ではマクロ経済学の基本的な考え方を漫画で学ぶことが出来る。難しい数式などを使わず、考え方だけ学べるというものだが、そこまでページ数も多くない上漫画形式ですぐ読めるのに対して説明している範囲が広い上にイラストによる例などで内容が分かりやすく、忘れかけていた多くのことを復習できた。 ただその分省かれているところもあり、数式が扱えないと説明が難しいのか、結論に至るまでの過程をほとんど飛ばして、結論だけを述べるのが非常に多く、これ1冊でマクロ経済学を深く理解しようとするのは無理がある内容だった。しかし、私は普段経済学の授業を受けている時、内容だけを理解しようとしていたが、この本は経済学の歴史の人物にも触れていることで、この本によって経済学の内容に対する理解が深まったと感じられた。 これらから本書は、これ1冊で深く理解しようとするための本ではなく、経済学について知らず大まかな内容だけマクロ経済学を学びたい人や、マクロ経済学を勉強する上での理解を深めたい人に対して、おすすめできる本だ。		
	全てのページ	232P (100分)	2020/11/30 12:53:56

hide ☆☆☆☆	自分は経済学の授業を取っていない。なので経済学はさっぱりである。だがこの本はそんな人でもわかりやすく丁寧に漫画形式で教えてくれるので、心配することはない。社会全体の大きなモノやカネの流れを理解することができる。マクロ経済学は現実の政策と密接に結びついてくるところなので、現実の政策や、過去の事例と照らし合わせながら読むと面白いかもしれない。例えばいま日本はデフレ状態に陥っているが、日銀がやっている政策はまさしくこのマクロ経済学に依ったものだ。漫画自体もたまに皮肉を混ぜつつ面白おかしく紹介してくれるので飽きずに一気見することができる。問題点としてはほかの人も指摘しているが、かなり表面的なところのみを開設しているにすぎないので、すでに分かっている人にとっては退屈なものかもしれない。しかし私からしてみればよくわからない数式や用語を出されだすと一気に見る気が失せてしまうので、これぐらいの粒度の方がちょうどいいかもしれない。		
	1-232	232P (100分)	6-16 2020/11/29 19:38:11

monica ☆☆☆☆☆	経営工学系の方ならばマクロ経済学の授業を受けて詳しくマクロ経済学を学んだ人も多いかと思う。しかしこの本はマクロ経済学について予備知識がない人でも分かりやすいようにイラストやストーリーを用いて解説されている。そして、マクロ経済学で考えていく社会問題としていろいろな問題を取り扱っている。それが失業問題、金融政策、インフレ、国内総生産、政府の役割、貿易、開発援助、外国為替、景気、貧困、などである。どの話題も規模が大きくて実感がないものが多い。その中でも比較的私たちの生活に身近なインフレなどの問題をここでは紹介しようと思う。インフレとは聞いたことがあると思うが物価の上昇のことであり同時にお金の価値が下がることでもある。そしてそれを測る指標として消費者物価指数を使う。インフレがなぜ問題かというところ「お金は長期的に中立」であるという考え方が崩れるからである。どの時代でも貨幣は同じ価値を持たなければ中立とは言えなくなる。さらに、物価が上昇した一方で、賃金も上昇していればそれはインフレとは言えない。なのでこのような点でインフレを完全に説明するのは難しい。このようにニュースなどで取り上げられている用語の意味や実社会で何が起きて何が問題なのかを理解する助けになりうる本なのでぜひ読んでみることを薦める。			
	1-232	232P (80分)	46-58	2020/11/08 13:47:56

ウル ☆☆☆☆☆	この本はタイトルの通り、大学の参考書特有の堅苦しさを一切排除し、簡潔でフランクな説明と4コマ漫画のようなコミカルな絵を用いてマクロ経済学の全容をふわっと学ぶことができるものになっている。内容はマクロ経済学を学んだことがある人ならば少々物足りなく感じる部分もあるが、その分焦点がはっきりしていてとても分かりやすい。マクロ経済学の二つの大目標や経済政策をめぐる古典派とケインズ派の対立、そして国際貿易や世界全体が抱えている未来の経済の問題点については、大学で学んだ時よりもよほどよく分かった。 すべての説明に漫画がついてくるので、言葉だけ聞くと難しそうな理論も問題なく理解することができるし、何より読んでいて疲れることがなく、一気に読んでしまった。マクロ経済学を学んだことがないという人にはもちろん、学んだけれどつまらなかったという人にぜひ読んでほしい。きっと、マクロ経済学というものを再認識するきっかけになると思う。ただ、今の時点でマクロ経済学を面白いと感じている人にとっては、簡潔にするためにモデル分析などの本来のマクロ経済学の面白い部分が割愛されてしまっているので注意が必要だ。			
	1-232ページ	232P (120分)	4-16ページ, 126-138 ページ	2020/10/18 18:09:29

[TOP](#)



この世で一番おもしろい統計学

著者名	アラン・ダブニー	発行年	2014年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	233ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4478026052
コメント	突然のビッグデータ時代。ひるむなかれ。 中心極限定理に仮説検定にp値。あのややこしい約束事、おおもとの発想をざっくりビジュアル化してくれて、さくっと胸に落ちます。（それにしてもミミズ缶とは・・・）		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

ssk ☆☆☆☆☆	本書は統計学を様々な事例に照らし合わせながら、いわゆる統計学を現実的な役立つツールとして活用する方法を学ぶことができるものである。最初はキャッチーなタイトルのために内容には期待していなかったが、驚くほど読みやすくスラスラと読むことができた。本書の個人的に良いと感じた点としては、実際に統計学を利用してうまくいった事例とともに誤った事例を載せている点である。特に、ビジネス関連の事例も多く載せているため、事業の中でデータを扱う際に基本的な運用方法を検討する上ではかなり良いツールなのではと思う。加えて、本書の特徴として、数式をあまり使わず具体例としての数値を多用しているため、初学者が興味を持ってイメージを掴む上でも適しており、また用語の解説も多くされているため、さらに踏み込んで調べたい場合にも用語がわからず困ることは少ないのではないかと思う。もし、誰かとデータを元に意思決定する仕事をするときには、本書を読んでおけば会話に困ることはないと思う。			
	全部	233P (150分)	36-47ページ	2020/12/01 21:04:51

bonc ☆☆	本書は漫画形式で統計学の概要、定義、性質などを説明する本である。アメリカ人の著者ということもあって、かなりアメコミ感のあるテイストになっている。昨今は機械学習の発展が目覚ましいこともあり、機械学習において重要な統計学を勉強したいと思っている人も多くいると思う。本書は、数学の素養があまりない人や小中学生にも理解しやすいように数式を使わずにすべての説明が記述されている。内容としても基礎レベルから始まり、平均、分散、標準偏差といった我々でもよく知った内容から説明してくれる。東工大の学生にとっては若干レベルが低すぎるという感じがするが、統計学の知識がない人や、小中学生相手に統計学の説明をしなければならない時には本書のように説明をすれば分かりやすいと思った。また、理系の皆さんにとっては数式を使わない説明は煩雑で分かりにくいと感じるかもしれないが、四則演算程度しか扱えない小中学生にとっては本書のような形式の方が理解しやすいと思う。自分の統計学に対する造詣を深める、という目的よりも統計学に疎い人に説明するために活用するという目的で利用するべき本だと言えるだろう。			
	全部	210P (60分)	どこでも	2020/11/30 21:30:47

PNJ ☆☆☆☆	200ページを超えるが、1ページの内容がそんなに多くないのでとても読みやすい。 chapterで細かく章分けされているので少しずつ読んでいくこともできるのも良い。 統計学を学ぼうと思う人が全体像を掴むにはとても良い本だと思った。統計学をしっかり学びたい のなら他の本を読むのをすすめる。とにかく初学者にはとても良い本だと思う。			
	全部	233P (120分)	1-14	2020/11/30 20:46:10
asao ☆☆☆☆	なかなか素晴らしい本でした。統計学をあまり知らない人は大枠を理解しつつ、注意すべき所をき ちんと抑えることができ、自分たち(東工大生)のような統計学初学者は授業で学んだことを体系的 に理解しつつ、具体的に復習することが出来ます。また統計学のエキスパートたちはユーモアあふ れる絵のタッチにクスリと笑いつつ、アランドブニー氏の説明のわかりやすさに感心してしまうだ ろうと思いました。要するに統計学に興味があるどの層にとっても、ためになるし、楽しめる本と なっていると感じました。特に立ち読みポイントのページは特に力が入っていて、統計学の根幹と なる最重要と言っても過言でない事項を分かりやすく説明しています。この章(chapter9)はオチも なかなか面白かったです。自分自信、統計学初学者として、授業では正直公式や、やり方を覚え問 題を解くというものだけだったので、具体的な統計の世界のことは分かっていなかったです。しか しこの本を読んだことで、ミクロ的な要素からマクロ的に統計を理解することが出来たので、そう いう意味ではより理解が深まりました。正直統計の授業の前に読んでおきたかった本です笑。ま た、数式ゼロだから難しくないというキャッチコピーで売り出していますが、それでもこの内容は 数学をきちんと学んだことのない人にはとっつきにくい本なのではないかと思いました。自分が正 直に紹介文をつくるなら「理系だけど参考書とかをじっくり読むのが苦手な人にオススメ！」にし ます。 内容的には以上ですが、マンガの絵も今までに見たことのないタッチで新鮮でした。どのキャラも 個性的でかわいいので、見ていて飽きないと思います。			
	全部	233P (150分)	105-120	2020/11/30 18:24:44
pero ☆☆☆☆	この本の一番の特徴は読みやすいということだ。最初213ページ(全233ページ)には数式が出てこ ず、漫画形式で書き進められているため、統計学についての本なのにストレスを感じることなくス ラスラと読み進めていくことができる。そもそも統計学とは何かということから始まり、統計学の 根本的な部分をかみ砕いたうえで分かりやすく説明しているため、これまで統計学を学んだことが ないという人や、学んだけれども問題が解けるようになっただけで統計学の本質を理解できていな いかもしれないという人にすすめる。ただ最初にも書いた通り数式を用いない説明であるた め、この本を読んだだけでは自分で計算ができるようになる訳ではないことには注意しなければ ならない。一応巻末に数式を用いた用語説明が書かれているが、問題や実際の計算は一切載ってい ないので、もっと統計学を学びたい人は別の本を読んで勉強する必要がある。けれども、この本を 読んでから統計学の勉強をすることで統計学の理解が深まると思うし、自分自身この本を読んで から統計学の授業を受けたかったなと思う。			
	1-233	233P (130分)	205-212	2020/11/30 14:19:13
落差 ☆☆☆	邦題が多少誇張された表現になっているから中身を見ることなく郵送で本を借りた私は正直肩透 かしを食らった気分でした。原題のニュアンスをそのまま使いたいのと敢えて漫画ではなくカー トーンと表記しますが、カートーン交じりで説明すれば面白くなるだろうと盲目的に信じて書 かれているような印象しか抱けなかったです。また、これは好みの問題かもしれませんが、活字以 外の情報にも意識が持っていられるからなのか読みづらく感じられ、頭にも入りづらかったです。 読了後の爽快感や充足感があまりなく、気が付いたら読み終わっていたといった印象で物足りなく 思いました。			
	全部	233P (200分)	2-14ページ	2020/11/30 07:09:46
やや酔 ☆☆☆☆	とにかく読みやすかった。ページ数は200ページを超えるが、分かりやすくしかも途中で飽きにく かった。というも本自体が絵本のような漫画のような構成になっていて、活字が嫌いな東工大生 にも優しいと感じた。去年大学の授業で統計学を学習したが、途中から理解が追い付かなくて最終 的にあまり内容を理解できずに終わってしまった。この本では統計とは何か、統計にできることで			

きないことなどを数式をほとんど用いずに説明してくれていて、立ち止まって見直す必要が無かったので良かった。数式がないなら深く勉強ができないと思う人もいるかもしれないが、そういう人向けに巻末に数学を用いた統計の説明もしっかりと載っている。こちらの内容については大学の授業で扱うような正規分布のグラフについてから、検定等についても触れていて深く学ぶことができる。初学者から理解を深めたい人まで広く楽しめる本になっていると思う。これを期に私も統計学を学び直そうと思った。統計学とは何かを知りたい人・理解を深めたい人・授業であまり理解できなかった人誰にでもおすすめできてしまうような一冊だ。

1-233P

233P (120分)

1-14

2020/11/25
21:06:53

[TOP](#)△



統計学が最強の学問である

著者名	西内 啓	発行年	2013年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	304ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4478022214
コメント	統計学ナニソレのかたは、とりあえず回帰分析の表くらい読めるように。 統計学まかせろのかたは、会得したスキルが実社会でどう役立つかを押さえるために。 それぞれのニーズに合わせて活用できる小回りの良さが身上。とりあえず最初に叩き込まれることは、ビッグデータにダマされるな！ です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

tatsukichi ☆☆☆	この本は、莫大なデータが錯綜する現代社会において統計学がどれだけ有用なものであるかを概説したものである。まず、統計学とはいったいどのようなものなのか、得られたデータから出た結論の妥当性はどのように考えるべきかなどについて、作者が実際に協力した企業の取り組みを例に挙げながら話されている。 読み手がビジネスマンや経営者であることを想定して書かれている本ではあるが、統計学を学ぼうとしている学生にとっても、統計学の力が実際にビジネスのステージでどのように発揮されるのかをイメージできるようになるという点で優れた本であると思う。注意してほしいのは、この本は統計のやり方を手取り足取り書いてあるのではなく、統計とはどのように考えるべきで、それがいかに効果的かを説いた本であるということである。この本を読んだからといって統計ができるようになることはない。この本を読み、統計学の必要性を理解することで統計学を学ぶモチベーションが高まるのではないだろうか。			
	全部	304P (180分)	79-85	2020/11/30 23:32:54

まーピー ☆☆☆☆	本書は、2012年9月11日から2012年12月28日までコンテンツプラットフォーム「cakes」において連載された記事をまとめたものである。全7章に分かれており、なぜ統計学が最強の学問と言えるのか、ビッグデータ時代において情報コストを増やすことの必要性、統計学の肝となる誤差・因果関係、統計学の武器となる「ランダム化」やその他の手法、さまざまな学問分野に応用され、それぞれの特徴、そして終章と題し、我々が統計リテラシーをどのように活用すべきかについて、統計学に精通している著者の観点から提示している。多くの情報が飛び交う現代社会において、必要な統計リテラシーを身につける為の入門書として優れていると思う。 本書では一貫して、「統計学は最速最善の答えを出すことができる」と主張している。ビジネスにおいて展開される経験や勘による不毛な議論、評論家や政治家が述べる無責任な意見といったものは統計リテラシーが欠如しているために発生すると著者はいう。統計リテラシーを身に付ければ、「なぜかよくわからないが」や「何となく」といった部分が裏付けられるとともに、「自分の人生を自分がいつでも最善にコントロールできるという
--------------	---

幸福な実感」を得ることもできるという。加えて、教育学から心理学、自然科学、スポーツ等にまで応用できる汎用性の高さという観点からも、最強の学問であると主張している。

また、昔からの手法を用いている統計学がなぜ今脚光を浴びることになったのかについても言及している。それはIT技術の進歩により、データ入力・管理・集計が容易になったことであると著者はいう。さらに、人工知能技術との違いについても触れており、人工知能が分類や予測だけができる一方で、統計的手法による予測モデルを用いれば、関連性についても把握することができ、今後何をすべきかというアクションにつなげることができるというものである。

本書はコンテンツプラットフォーム上に掲載されたコラムをまとめたものであるがゆえに、統計学がなぜ最強の学問といえるのかという点に関しては前半、とりわけ第1章で説明しきっている。そのため、第2章以降は最強の学問と言える所以よりは、その手法や、活用法についての説明が多い部分があり、専門用語も少々現れる一方で説明は簡略的である。この部分は、なぜ統計学が最強の学問といえるのかについて知りたいという読者にとっては少々退屈な部分ではないかと思う。また、著者が生物統計専攻ということもあり、やや医療統計に偏った内容であるという点もあった。しかしながら、統計学にある程度精通している、もしくは興味がある場合には、非常に有用な事例が多いため、好奇心を駆り立てられる内容になっている。

総じて、本書では統計学が持つ可能性、統計リテラシーの有無による人生の充実性に触れられており、情報が錯綜する現代において、誤情報に流されない道筋を照らしてくれるはずである。

全部	301P (240分)	1-33ページ	2020/10/24 12:37:48
----	-------------	---------	------------------------

unknown

☆☆☆

統計学はデータを分析することを本質とするためありとあらゆる学問、課題の土台となります。本書はそんないくらでも応用のきく統計学についての概要と最低限のリテラシーを身につけようと書かれたものです。経営工学系では確率や統計の授業があるため聞いたことがある内容がしばしば出てきたりします。筆者は統計のプロなだけあってビジネスのことから物理学のことまでどのように統計学が使われているのか幅広い知識で教えてくれます。その反面、社会のおかしなところに批判的になることも多く所々強めの論調だったりします。我々が今までの経験からこうであろうと予測したこともデータで分析すれば間違っていることが多く存在することを教えてくれたり、単に統計学の知識が書かれているだけでなく分野によってどのように分析すべきか、倫理的観点で見た場合大丈夫なのかなど統計を取り巻く情報を網羅してくれています。どの分野を勉強している人でもこの本読めば統計の勉強をしなければ！という焦燥感に駆られてしまいます。

1-289	289P (180分)	283	2020/10/13 18:49:05
-------	-------------	-----	------------------------

[TOP](#)



データ分析の力

著者名	伊藤 公一朗	発行年	2017年
出版社名	光文社新書	ページ数	284ページ
値段	780円	ISBN	978-4334039868
コメント	パネル・データを扱うY研究室（どこ？）の新必読書。 ビッグデータにどう斬り込んで、どうやって新知見を引き出すか、切れのよい説明と魅力的な具体例による、この分野の最適なガイドです。 あなたも知らない間にRCTのターゲットになってるかも？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

うさぎのぶー ☆☆☆☆	「データ分析の力」という本は、世の中に溢れているデータの読み取り方や使い方について経済学初心者にも分かるように説明している。というのも、統計学の話をしているにも関わらず数式が一切出てこないのである。学んだことある人には少し物足りないかもしれないが、一切学んだことないけど興味はあるといった人にはこれ以上ない入門書になると思う。 ここからは内容の話になるが、第1章において「データから因果関係を導く」ことの難しさについて語られている。立ち読みポイントにも指定させてもらったが、ここを読むことで、データを正しく読み取るには細心の注意を払わなくてはならないことが理解してもらえるだろう。 後半には実践的なデータ分析の話になるが、イラストやグラフが非常に多く、具体例ベースで話が進んでいくため、話についていきやすい。読んでいて飽きることはなく、集中したまま読めた。 私が個人的に面白かった部分は、第4章の集積分析にて登場する、かつての日本の「自動車の燃費規制」の例である。期待とは逆の効果を出していたことを、データ解析で暴く展開にテンションが上がった。おそらく分析をしていなかったら誰も気づかなかっただろうな、と思うとその重要性が感じられると思う。 統計学の面白さが詰まった1冊だった。		
	全部	273P (180分)	27-52ページ 2020/11/30 22:23:40

unknown
 ☆☆☆☆	本書はデータ分析において因果関係の見極め方についてわかりやすく説明しています。 データ分析と聞くと難しい数式の羅列などを想起してしまいがちですが、本書では数式は使わず、わかりやすい具体例を挙げ要所要所に簡単な図やグラフを用いることでスムーズに理解をさせてくれます。 第1章ではデータから因果関係を導くことの難しさを具体例を挙げて説明し、第2章ではその解決策としてのランダム化比較試験、第3～5章ではランダム化比較試験が不可能な場合に用いる自然実験として3つの手法の解説を行います。 読んでいて嬉しかったのは、各章の終わりにその章の内容のまとめを書いてくれていることで、これによって読み進めていくうちにごちゃごちゃしてくる頭の中の整理ができました。
---------------------------	--

データ分析に少しでも興味があるけど難しい本は敷居が高いと感じているひとに特におすすめします。			
3-269	267P (300分)		2020/11/30 08:07:32

pannda ☆☆☆☆☆	この本は数式ではなく具体例（日本だけでなく）が多く示されていて直感的に理解しやすい内容となっているためどのような人でも読むことで様々なデータ分析の方法をある程度知ることが出来るようになる。その結果として身の回りの情報が多くなっている現代において溢れている情報の信憑性をある程度自分で判断することが出来るようになるためどんな人でもこの本を読んでほしい。また、各章ごとにその章で述べられていたことのまとめが書いてあることやどのような分析が行われているか表で記されていることから非常に読みやすい本であると思われる。ただ、同じことを様々な例で述べた上にさらにまとめがあるためある程度知識がある人にとってはしつこいと感じてしまうかもしれない。しかし、8章で入門書から計量経済学を学んでいくためのおすすめの本籍も紹介されているためこの本を計量経済学を学んでいくための超入門書として読み、もしこの本が少ししつこいと感じてしまう人は5勝までの一通り各章のまとめの部分に目を通して簡単に感じるなら6.7.8章（6.7.8章は分析の実用例や応用的なことが書いてあるためある程度計量経済学について詳しい人も読むことをお勧めする）を読み一つ上のレベルの本から読み進めるのもよいだろう。		
	1-284	284P (150分)	1-52 2020/11/28 16:27:06

sora ☆☆☆	本書の目的は、データ分析が必須になったこの時代に文系、理系問わずデータ分析の基本的な考え方を数式を使わずに解説していくものだ。本来データ分析は数式を用いて行うものだと考えられるが、数式を使わなくても十分な分析ができるということを本書は示した。数式を使わない分析として4つの分析方法を提示している。まず、実際の世界で「実際に実験してしまう」ランダム化比較試験RCT分析、そしてこれが不可能ならば「境界線」を賢く使うRDデザイン方式、「階段状の変化」を賢く使う集積分析、「複数期間のデータ」を生かすパネル・データ分析の3つの方法を取るというものだ。これらのそれぞれの方法が解説されている。また、この本の各章は初めに基本的な内容を説明し、後半になり具体的な例を解説する。さらにそれぞれの章のの終わりに章のまとめがつき、見返しが容易である。本書は簡単なデータ分析の方法はもちろん、誤ったデータの見方を正してくれる良書である。		
	家	300P (180分)	2020/11/22 04:17:05

[TOP](#)



ヘンテコノミクス

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィー
ル

掲示板

著者名	佐藤 雅彦・菅 俊一・高橋 秀明	発行年	2017年
出版社名	マガジンハウス	ページ数	160ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4838729722
コメント	左と右を線で結べ。 アンダーマイニング 堀のらくがき ハロー効果 無敵の戦国武将 上昇選好 週給どんぐり制 はい。どれも、すなおにヨコに結べば正解です。そんなはずないって思ったあなた。それは何効果でしょう？マンガでとってわかりやすいから講義でも使います。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

asao ☆☆☆☆	行動経済学の入門書を誰かにすすめるとしたら、まずこれといってもいいくらい良いものだと思います。重要な用語を具体例で一回で分かりやすく説明しています。行動経済学について何も知らない人なら、たくさんの情報をこの本から学ぶことができ、実生活で人に話すくらいまでにはなれると思います。また大学の教授などがこの本を読んでも、学生に用語の例を紹介しなければならぬ時には、大いに役立つと思いました。何よりも驚いたのは、ストーリーの多さです。行動経済学には似た現象となる用語が複数あったりするので、似たストーリーになってしまう危険性があったと思いますが、一つ一つの言葉に対して、どれも違うストーリーを作っているところに作者の苦勞を感じとても感心しました。そのおかげで飽きずに最後までスラスラと読むことが出来ました。また目を引く表紙であったり、読みやすいフォントや文字空間、くっきりした絵、などが読む人のことをよく考えられていて、ここにも行動経済学の何かしらの作用が用いられているのかな？なども感じました。			
	全部	159P (100分)	106-109, 140	2020/11/30 19:15:29

tatsukichi ☆☆☆	この本は、人間を合理的な生き物（ホモ・エコノミカス）ととらえてきた従来の経済学とは対照的に、人間の非合理的な行動について研究し、実際の我々の経済行動を考えていく学問、行動経済学について漫画形式で具体例を数多く紹介していくという内容である。 行動経済学を全く学んだことがない人、興味を持っているが、学術的な堅苦しい本から読み始めたくない人などにとって、この本はとても優れた足掛かりになるのではないかなと思う。漫画形式のた
-------------------	--

め大変読みやすく、漫画の登場人物の行動と自分の行動とを照らし合わせながら読み進められるために内容が理解しやすくなっていると感じた。 一方で、紹介されている心理現象はかなり有名なものが多く、行動経済学についての知識を幾分持ち合わせている人にとっては少し物足りない内容になっていると言わざるを得ない。 行動経済学についてほとんど知らないという人にはその第一歩としてぜひ読んでいただきたい本である。また、人間の心理行動は多くの人が興味を持つ話題であると思うので、飲み会の話題にでもなるのではないだろうか。			
全部	160P (60分)	46-50	2020/11/30 19:10:20

mog ☆☆☆☆	僕は、行動経済学がどのようなものなのかまだよくわかっていない人や、難しい文章が読めない小中学生にこの本をおすすめしたいと思いました。基本的に「漫画」という形の対話形式であるため、話が頭の中に入ってきてやすいです。一つ一つの章も短くまとまっているので、幅広く浅く知識を拾っていくことができます。この本は行動経済学の全体像のいち早くつかませる役割を果たすことができると思います。 ここでは一つだけ例を紹介しようと思います。93-98ページにおいて、ゴールが近づくにつれてやる気を起こすようになる、という内容のことを書いています。これは確かに受験などでも同じようなことを感じたと思います。これは、人を使う立場になった時にも有効だと思われます。こまめにゴールを感じられるような制度を作ってしまうと、それだけで社員の効率は上がるのではないのでしょうか？ 意思決定の仕組みを理解することで自分自身のことをよりよく理解することができ、さらに他人をコントロールすることすら可能になるでしょう。2時間ほどで読めるので、経営工学系としては行動経済学の導入として読んでおいて損はないと思います。		
	全部	160P (110分)	93-98,140 2020/11/30 16:40:57

とうふ ☆☆☆	この本は、行動経済学について広く浅く紹介している漫画です。沢山の小さなストーリーからなる、短編漫画集のような形式にまとまっています。 行動経済学の様々な原理であったり法則であったりを、具体例からの切り口でたくさん紹介しています。そして最後に具体的な名前であったり解説・別の事例を載せてまとめているという流れです。 実際本の大半は具体例紹介の漫画が占めており、細かい内容まで知りたい方には少し物足りなさがあるかもしれません。しかし、漫画自体はかなりわかりやすいポピュラーな具体例を、触れ合いやすい絵柄で描いているので読みやすさに関しては最高レベルだと思います。 実際に行動経済学を学びたい方には物足りなさはあると思いますが、世間の裏に隠されたルールであったり戦略であったりを知ることが出来るという観点で、一般の方にお勧めしたい本です。 また、この本で本当に面白いのは一通り読み終わった後のあとがきだと思います。この本自体にもたくさんの行動経済学に基づいた細かい仕組みが含まれていて、その影響もあり最後までスムーズに読み切ることが出来ると思っています。 一つ残念なところとしては、内容が薄いわりにこの先にどう学んでいくかという部分が分かりにくいことです。興味を持った範囲について自身で調べていくのみになるので、より深い学びをしたいと考えている方は、この本を飛ばしてもう一段回上の本に時間を割いた方が効率的かと思いました。		
	全部	159P (120分)	28-31 2020/11/29 22:54:11

ノゴロー ☆☆	行動経済学という堅苦しい内容をおもしろいストーリーの漫画を使って非常に分かりやすく説明している本でした。分かりやすさと面白さがとても重視されているので、行動経済学の内容自体は非常に薄っぺらいものでした。それいってというような無駄な漫画の描写もあって少しイライラしてしまいました。なんとなく行動経済学に興味がある小中学生とかが読む分には最適で素晴らしい本だと思います。しかし、大学生が行動経済学について少し概要だけでも知りたいなというときに読むにはあまり適していないような気がしました。内容が薄すぎて得られる情報は少ないし、無駄な漫画のストーリーで時間だけとられます。 もっと詳しく知りたいときは、この本の最後に参考文献がたくさん載っているのをそれを読んだら		

	読んでみるといいのかなと思いました。いくつか、経営工学系の教授からおすすめされた本も載っていました。あと、ヘンデコノミクスという題名はとってもおもしろくて興味を惹かれました。			
	全て	152P (100分)	1-20ページ	2020/11/29 18:51:34
じょおおおおおん ☆☆☆☆	この本のおすすめポイントはとにかく読みやすいということである。 文章が永遠と連ねられているのではなくマンガ形式となっていて、最後にちょっとだけの文章でその章で何が言いたいかをまとめている。 内容に関して自分はあまり行動経済学というのに詳しくないのだが、実生活で役立つ心理ばかりでとても参考になった。 面倒くさがりだけど面白い知識を得たいという人にとってもおすすめできる一冊である。 興味を持ってもらうために自分が面白いと思ったものを紹介すると、代表制ヒューリスティックというものは今まで絵柄があった漫画が急に絵柄が描かれておらずセリフだけで物語が描かれる。次のページにはネタバレレとして絵柄付きの漫画が描かれている。そこを読んだだけでどういった心理効果が働いていたのかがわかり、もはや文章を読まなくても何を言いたいかがわかってしまった。読んでいる自分自身がその心理効果を体験できるというのは一番納得しやすく、自分もこれを読んだときちゃんとその効果があてはまっていたよかったです。			
	全部	160P (240分)	46	2020/11/26 19:41:01
ヴィーキ ☆☆☆☆	この本読むことで、行動経済学という今まで聞いたことはあったが実態が良くわからなかったものについておおまかに知ることができた。通常の参考書などと違ってマンガでの説明が多いため読みやすくわかりやすかった。小中学生にもオススメできる本だと思う。自分が特に「おっ」、と思った部分が、100ページからはじまる長さに関する感覚テストである。この章では本の中の登場人物(腕のみ)と一緒に長さ感覚のテストをしていき、最後にひっかけられてしまうものである。このような形式の本は最近ほとんど読んでおらず、とても新鮮に感じ、やはりただ本を読むよりこのように実験参加型のようにした方が印象に残りやすいと思った。多くの章で章末に行動経済学が現実に影響している部分を紹介していたため、内容がわかった後だととても納得できるものも多く、110ページのバーナム効果なども実験参加型で説明されていたためわかりやすかった。これを、家族や友達と一緒に読むのもおもしろいかもしれない。			
	全部	159P (100分)	100-103ページ	2020/11/26 18:58:38
えると ☆☆	読む人によって、何を得られるかが大きく違ってくるタイプの本だと思います。 行動経済学分野で頻出する、OO効果など一般的には知られていない概念を、新聞の4コマ風にわかりやすく紹介し、つかみの部分まで案内してくれる、そういった役割の本です。 僕はレポートを作る際、まずは関連する言葉をWikipediaで調べて、特定の分野周辺のキーワードやその情報ソースをひたすら拾っていくことでまずは全体を見渡すように心がけています。この本は行動経済学という学問の全体を、Wikipediaよりも数百倍簡単に説明してくれています。その点で、初学者や、そもそも経済学も数学も知りませんという人にとって読みやすく丁寧に書かれています。 しかし、ある程度経済学を学んだり、学問に足を踏み入れている人にとっては、説明がやや不十分で、「都合の良い例ばかり拾っているのではないか」というような印象を持つかもしれません。確かに、広い範囲を簡易に扱っているためそれぞれの内容はかなり薄いです。それでも、p.45-p.50では、読者を「実験台」にして話題に引き込むなど、ある程度、説得力をもたせようという工夫が散りばめられてはいます。 これを読んで「よしもっと調べよう」と思えたなら素敵ですが、「ふーん」で止まってしまう人も多いのではないのでしょうか。			
	1-159ページ	159P (70分)	46-50ページ	2020/11/20 22:45:27
virus ☆☆☆	読みやすい。なんと言っても読みやすい。やはり、新しい分野に手を出すことは知らないことばかりであるが故に理解に時間がかかったり、知らない単語や専門用語に疲れることも多々あるだろう。しかしこの本は身近でわかりやすい具体的な事例を漫画にして教えてくれるので、行動経済学を気軽に勉強できる。導入としてはとても良いだろう。堅苦しくなく、一つ一つの話も短いの、			

本を読む時間も長くても2時間程度で読めるのもいい点だと思われる。読むのが遅い自分でも2時間くらいしかかかっていないので早い人だとすぐ読み終わるだろう。

しかし、本当に簡潔であるが故に、触りしか勉強出来ず、具体的に何かに応用するには難しいと感じた。確かに具体例は挙げられているのだが、実際どういう場合にどう言った方法で使うと良いのかという応用する際の説明がないためこの本と同じような事例でしか利用する方法がなかなか思いつかず、深くまで理解することが出来ない。やはり勉強するからには今後利用出来なければ意味が無いので、応用編としてもう1冊欲しいと思いました。

全体としての評価は読みやすく、すぐ読み切れるといった点から良かったと思う。個人的に1つの話が終わる度に出てくる行動経済学に関連したコラムが好きで、特にp.140の偽薬の話は読んでいて作った人天才だなと思いました。どんな話かという偽薬を飲ませることで、薬を飲まないことに対して抱いてしまう不安感を解消するというもので、こういった人をポジティブな方向に影響を与える行動経済学の用い方は素晴らしいなと思いました。

全て1-159ページ	159P (120分)	140ページ	2020/11/09 02:05:44
------------	-------------	--------	------------------------

僕はこの本を、行動経済学を勉強したい人が初めに読む本としてもものすごくお勧めします。理由は3つあります。

- 1、 漫画形式で活字アレルギーでも読みやすい
- 2、 効果を紹介する23章で構成されていてそれぞれが並列になっている
- 3、 各章の最後に要点が短い文章でまとめられている

続いて、説明されている様々な効果を紹介しても良いのですが、この本にはたくさんの事例がありキリがありません。なので、今回は具体的な話でなく行動経済学によって解き明かされた人間のヘンテコ（非合理的）な意思決定の根源を考察してみます。

まず、リソース削減のためです。経験による推論を利用することで、従来より半分の労力で80%のクオリティーの意思決定をするということです。人が1日にできる意思決定の数は限られていると言われています。思考のリソースは有限だからこそ、どうでもいいことはある程度適当に対処すべきなのです。そのことをメタ的に理解していて、わざとヘンテコな意思決定が行われているのではないかと考えます。

次に、意思決定を即座におこなうためという理由です。これは神経にみられる反射と同じで、熟考するよりも素早くそれっぽいアウトプットを出した方が良い場合の生存戦略です。

これらの理由により、人間はあえてヘンテコな意思決定をしているのではないかと思います。

全て1-159ページ	159P (60分)	9-14,51-56,63-68,93-98,99-104,124-125ページ	2020/10/07 19:05:08
------------	------------	--	------------------------

[TOPへ](#)



経済は感情で動く

著者名	マッテオ・モッテルリーニ	発行年	2008年
出版社名	紀伊國屋書店	ページ数	302ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4314010474
コメント	イタリア仕込みの行動経済学。話題はほかの本ともかぶるけど、トピックごとにていねいに解説してあるのがメリット。 楽しい実験例が豊富なので、つつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように。これを「後悔回避 regret aversion」と申します。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

mog ☆☆☆☆	初めての行動経済学と書いてある通り、行動経済学の入門書として使える大変読みやすい本である。問題をつかったクイズをもとに、人間の意思決定の非合理性を示している。前半の内容は、意思決定に関する本でたびたび読んでいたので目新しいことは特になかった。10000円がいつも同じ価値の10000円ではない、まあ拾った10000円の手に入れる方法が違えばそりゃそうだよな、という感じ。 後半では、理性と感情というテーマに入っていく。P282では神経経済学というもの紹介されていた。これは人間がある行動をするときに脳のどの部分が働いているのか、もしくは感情が作用しているのか、などを見ることができるものである。あるいは脳の中のホルモンが人間にどのような影響を与えていくのかを調べるものである。行動経済学で漠然と扱われてきたテーマが人間のどの部分に作用しているのかわかるようになればより行動経済学の理解が深まるだろう。今後どのような方向に研究が進んでいくかはわからないが、とても面白い分野だと感じた。			
	全部	314P (180分)	262-299	2020/11/30 22:04:04

つくし ☆☆☆☆	行動経済学を学びたいがどうにも難しそうだし、どこから勉強すればいいのかわからない人必見！ 多くの事例を登場させ、クイズで読者に問いながら説明する形式は堅苦しくならずゲーム感覚で読み進めることができる。それこそ友達と実際クイズを楽しみながら読むのもあり（むしろそっちのほうが記憶として残ったりして）。なお本書は分厚い。読書をする習慣のない人には手を付けづらいかもしれないが、項目が細分化されておりどこからでも読み始めることが可能。目次を見て興味のでた部分から読み始めればよい。実際わたしは電車のなかで項目を一つずつ選びながら読んでいった。スタンプラリーを埋めるみたいに攻略したい欲が徐々に出てくるので本書のチカラは恐ろしい。ここでひとつ読み始めるのにおすすめの項目を提示しておこう。 211ページ「13 将来を読む」。冷たい水に手をひたしておかなければいけないとする。Aの場合は60秒。Bの場合は90秒（ただし60秒超えたあたりから冷たいのは冷たいが、いくらかましな温度になる）。あなたならどっちを選ぶ？もちろん時間は短いほうがいいからAと答える人が多いだろう
-------------	--

う。しかし実際経験した人の8割は、「Bのほうが良かった」と答えた。終わりが良ければそっちのほうが良いと思ってしまうピークエンドの法則。この項目は短く、5分ぐらいで読める。もちろん教訓まで読んでね。

ここでひとつ前の項目の教訓を少しチラ見してしまおう。「投資家の心理」、「支配の錯覚が自分の首を絞める」。どうだろう少し興味がわいてこないだろうか。

これは一例に過ぎない。どうかあなただけの攻略方法を見つけて本書を楽しんでほしい。

全部

314P (240分)

211-218ページ

2020/11/30
20:48:10

ミニー
☆☆☆☆

経済が感情で動くってどういうこと？この本は行動経済学の様々な知識を具体例やエピソード・実験を使って説明しています。ところどころ「教訓」として結論が書かれており、用語の意味の紹介もあるのでとても分かりやすいです！

雨の日ほど人々はタクシーに乗りたがるのに、実際は晴れの日より雨の日の方がタクシーの運転手は仕事を早く切り上げてしまう。これはその日の売り上げの目標額に達することができないと運転手はそれを損失と考えもっと長く働こうとしますが、目標額に達してしまえば得した気分になり、さらに長く働こうなどと思わずに、それより飲みにも行こうとする心理が働いているからです。しかし経済学的観点からすれば、運転手は売り上げが多い日に良く働き、少ない日にはさっさと引き上げて自由時間を楽しむべきなのです。

この本にはそんなエピソードや小ネタがたくさん載っています。人間って合理的に判断しているように思えて、実はメディア・お店に引っ掛けられていることもたくさんあるかも？？数学や数式はあまり使わず、脳の働きから神経科学にまで話が発展していくとても興味深い本です。みなさんも行動経済学の世界にどっぷりつかってみませんか？

全部

316P (200分)

105-118

2020/11/28
12:15:59

まーピー
☆☆☆☆

本書は、「感情の経済学」と銘打って、これまで経済学で考えられてきた合理的な人間、ホモ・エコノミクスではなく、極めて人間的な側面を持ったヒューマンについてクイズ形式でまとめたものである。大きく2つに分かれており、前半部では行動経済学、後半部では神経経済学を基に、経済、殊に人間の行動は感情に左右されている例が詳細に述べられている。計50問以上の質問は、購買に関するものから、株価、サッカーの試合、医療現場等、多岐にわたっており、その適用範囲の広さを暗に物語っていると思う。

本書では様々な心理現象を取り上げているが、訴えは明瞭である。選択をする上で「困ったことになるのは私たちがものを知らないからではなくて、知らないのに知っているつもりでいるからだ」ということである。自分の限界を正直に認め、研究し、罨を見つける術を身につけて選択することにより、合理性の限界を利用して、利益を引き出そうとする輩に困らなくて済むのだという。

さらに、本書の評価すべき点は、感情で動いてしまうことに対して、どのようにすればよいのかを述べただけではないという点だ。感情で動くことが必ずしも悪いことであるとしていないということについて言及しているのである。感情やそれに関連する身体細胞の活動が、論理を繋ぎ留める基としての役割を担っており、有効な記憶と将来のシナリオに直結する力を保つための働きとして不可欠であるという主張は執筆当時の最新の神経経済学の研究に基づいた結論であり、理性と感情の両者をうまく組み合わせることを読者に訴えているのだ。

また、著者は、人間が都合の良いようにとらえてしまったり、「なじみの感覚」を用いたり、手っ取り早く過去から学ぶことを総括し、効用最大化の原則より努力の最小化に従って動いていると指摘している。つまり、人間、ヒューマンはホモ・エコノミクスであるよりホモ・ピゲル（怠け者）であると述べているのだ。この主張により、感情だけが先走っている人間に対し、先ほどの主張の核となる「理性と感情の組み合わせ」をより読者に求めているように見える。

本書の問題に取り組むだけでも、如何に自分が「知っているつもり」でいるかが分かるだろう。そして、その影響により、如何に感情に任せているかについて思考を巡らせることもできるだろう。ここに書かれた問題より複雑に、より不明瞭に進行する実社会においても、本書における著者の言葉は、自分を見つめ直す契機となるはずである。

全部

316P (300分)

各章にまとめられている教訓

2020/10/24
12:36:33



お金と感情と意思決定の白熱教室

著者名	ダン・アリエリー	発行年	2014年
出版社名	早川書房	ページ数	196ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4152094667
コメント	やんちゃ坊主みたいな先生です。自分で見つけたことがおもしろくってしかたない。学生たちとも発見の興奮を共有したい。 はずんだ気持ちそのままの講義ライブ。ものおじせずにぼんぼんアイデアをはじけさせるフロアにも助けられて、話の要点がするする入ってくること請け合い。 てっとりばやく行動経済学とお友達になりたいかたに。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

[TOP](#)